

厚生労働科学研究費補助金

地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業

国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な

介入手法の確立に資する研究

(20BA1002)

令和2年度～4年度 総合研究報告書

代表研究者・磯博康

令和5（2023）年5月

# 目次

## I. 総合研究報告

国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究-----1  
磯博康

(資料) Global Health Diplomacy Workshop (2020) Book of Abstracts

(資料) Global Health Diplomacy Workshop (2021) Book of Abstracts

(資料) Global Health Diplomacy Workshop (2022) Book of Abstracts

(資料) 「グローバルヘルス外交の手引き」日本語版

II. 研究成果の刊行に関する一覧表-----6

厚生労働科学研究費補助金  
(地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業)  
総合研究報告書

「国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な  
介入手法の確立に資する研究」(20BA1002)

研究代表者 磯 博康 国立国際医療研究センター 国際医療協力局  
グローバルヘルス政策研究センター センター長

研究要旨

日本の保健分野の国際協力は、G8 洞爺湖サミット以来、一貫して保健システム強化やユニバーサル・ヘルス・カバレッジの主流化を先導してきたことが国際的に高い評価を得ており、我が国の国際保健外交を牽引する国内関係者や専門家の経験が積み重ねられてきている。しかしながら、それらの土台となる知見や国際会議の経験は、必ずしも系統的に分析され共有可能な形で若手・中堅の国際保健人材育成に活用されたりするには至っていない。本研究は、国際保健外交及び実務にて経験豊富な研究者及び実務者連携を図りながら、World Health Organization (世界保健機関)主要会合並びに総会を中心に、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や、日本及び各国政府の動向を分析したうえで、国際会議に戦略的に介入し、日本の立場を主張し意思決定に反映させるための手法開発と若手や中堅実務者向けの効果的な教育プログラムの確立を目的としている。

令和2年度は、WHO 主要会合並びに総会における討議内容や決議に関する情報を収集するために、日本の介入が効果的な分野(強み)と介入しにくい分野(課題)を実証的に分析した。また、これらの分析結果を元に現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムを検討した。そして、国際保健外交における実践経験者を日本政府や関係機関、タイ政府、ブラジル政府、WHO から講師として招き、国際保健外交の基礎知識及び能力強化のワークショップ(Global Health Diplomacy Workshop)をオンライン開催し、教育プログラムの開発と改善を行なうとともに、国際会議での発言や交渉の模擬演習を対面で行った。

令和3年度は、グローバルヘルス外交における主要課題を米国ジョージタウン大学外交ケーススタディ教材を用いて検討し、日本の強みと課題を分析した。保健課題は、家族計画・人口問題、官民連携、新興感染症・健康危機、知的財産、医薬品へのアクセス、国際保健支援の枠組みを取り扱った。また令和3年度12月には、日本とタイ政府から該当領域の専門家を招いて、講義と演習を行うグローバルヘルス外交ワークショップを開催した。講義内容は、グローバルヘルス外交の流れ、人材育成、国際会議での発

言様式、介入への準備、発言原稿の形成、交渉の原則、日本の国連での介入の実例と課題、公衆衛生上の交渉課題、多様な機関とのパートナーシップなど多岐にわたった。

令和4年度は、我が国の国際保健人材育成のためのグローバルヘルス外交教材を開発することを目的とし、「A GUIDE TO GLOBAL HEALTH DIPLOMACY」の和文翻訳と、教材を用いた全14回の輪読会を実施した。輪読会では、翻訳監修プロセスそのものが人材育成の機会となるよう、グローバルヘルス外交の専門家による解説を交え、最新のグローバルヘルス外交の知見・経験を共有した。さらに、令和4年度12月に開催されたグローバルヘルス外交ワークショップでは、対面を基本とするハイブリッド形式で、医薬品アクセスと価格透明性に関する講義と演習を行い、WHO執行理事会での介入を模した演習に取り組んだ。演習においては、会議文書の読解、対処方針の検討、加盟国との交渉、会議での発言を演習し、専門家からのフィードバックを得た。

本研究期間3年間を通じて開発された教材と研修プログラムを通じ、国際会議に戦略的に介入して日本の立場を主張し意思決定に反映させ、国益及び国際的な平和を守る人材の育成に貢献した。

研究代表者：

磯 博康 国立国際医療研究センター  
グローバルヘルス政策研究センター  
センター長

研究分担者：

中谷 比呂樹 国立国際医療研究センター  
グローバルヘルス人材戦略センター  
センター長

梅田 珠実 国立国際医療研究センター  
グローバルヘルス政策研究センター  
客員研究員

明石 秀親 国立国際医療研究センター  
国際医療協力局 運営企画部長

勝間 靖 国立国際医療研究センター  
グローバルヘルス政策研究センター  
研究科長

坂元 晴香 東京女子医科大学  
国際環境熱帯医学講座 准教授

細澤 麻里子 国立国際医療研究センター  
グローバルヘルス政策研究センター  
主任研究員

齋藤 英子 国立国際医療研究センター  
グローバルヘルス政策研究センター  
上級研究員

石塚 彩 国立国際医療研究センター  
グローバルヘルス政策研究センター  
客員研究員（2021年8月末まで）

須貝 眞彩 国立国際医療研究センター  
グローバルヘルス政策研究センター  
客員研究員（2021年3月末まで）

A. 研究目的

日本の保健分野の国際協力は、G8 洞爺湖サミット以来、一貫して保健システム強化やユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の主流化を先導してきたことが国際的に高い評価を得ており、2019年日本は、国連において初めて開催されたUHCハイレベル会合にて、我が国が国際保健外交を牽引する姿勢を国際社会に示した。また、同年日本はG20議長国を務め、UHC、高齢化への対応、健康危機・Antimicrobial Resistance(薬

剤耐性)といった国際保健の重要施策の方向性について合意を形成したほか、Tokyo International Conference on African Developmentにおいてもそのプレゼンスを発揮するなど、グローバルヘルス外交における国内関係者や専門家の経験を積み重ねてきた。

しかしながら、それらの土台となる知見や国際会議の経験は、必ずしも系統的に分析されて共有可能な形で若手・中堅の国際保健人材育成に活用されたりするには至っていない。

本研究は、World Health Organization (世界保健機関)主要会合並びに総会を中心に、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や、日本及び各国政府の動向を分析したうえで、国際会議に戦略的に介入し、日本の立場を主張し意思決定に反映させるための手法開発と効果的な教育プログラムの確立を目的とする。

具体的には、WHO 主要会合並びに総会における討議内容や決議から、日本の介入が効果的な分野(強み)と介入しにくい分野(課題)を実証的に分析するとともに、各国のアプローチとの比較を行う(初年度)。その結果を踏まえ、WHO 会議において各国の対立が不可避なテーマ等についてケーススタディを行い、日本の立場を効果的に主張するための手法を開発する(2年目)。さらに、諸外国のグローバルヘルス外交にかかる政策研究機関の動向や、それらが有する研修プログラムの情報を収集・分析し、国際保健人材育成のためのグローバルヘルス外交教材を開発し、研修プログラムを確立する(3年目)。

本研究の特色・独創的な点は、長年にわたり公衆衛生分野で国内外の人材育成をリー

ドし、我が国の国際保健の政策研究拠点を担う研究代表者が、WHO 執行理事会議長経験者をはじめ、実際に国際会議での交渉経験をもつ分担研究者をそろえ、国際会議のリアルワールドで現実に行われている様々な介入や交渉の情報を入手し活用しつつ、戦略的な分析と実践的な手法開発を行うことである。

## B. 研究方法

本研究は3年計画で、WHO 主要会合並びに総会を中心に、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や、日本及び各国政府の動向を分析し、国際会議に戦略的に介入し、日本の立場を主張し意思決定に反映させるための介入手法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発する。その際、厚生労働省、外務省、国際協力機構、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につながることを目的とした。

上記目的を視野に、令和2年度(初年度)は、WHO 主要会合並びに総会における討議内容や決議に関する情報を収集し、日本の介入が効果的な分野(強み)と介入しにくい分野(課題)を実証的に分析した。また、各国の立場の変化やその背景となる政策についても情報収集し、我が国との比較を行った。これらの情報を取り込んだ研修プログラムを、グローバルヘルス外交ワークショップ(Global Health Diplomacy Workshop)において実施し、効果について評価を行い次回の改善につなげた。ワークショップには、タイ王国の様に先駆的、組織的に国際会議への介入、若手の人材育成を推進してい

る国から行政官・研究者を招いて研修内容のレベルアップを図った。

令和3年度(次年度)は、ジョージタウン大学外交ケーススタディ教材の中からグローバルヘルス外交の主要課題に関わる7ケースを用いて輪読会を行った。前半は各ケースについて輪読を行い、後半は前半で取り上げた課題について日本の事例を検討し、日本の強みと課題を分析した。参加対象者は、グローバルヘルス外交に関わる実務家、行政官(厚生労働省や外務省)そしてアカデミアの若手からベテランまでとした。さらに、令和3年12月に開催されたグローバルヘルス外交ワークショップでは、輪読会および令和3年10月の対面型ワークショップでの議論を踏まえ、国際会議で効果的な介入を行うための実践的なスキル習得のために、日本のみならず、タイ政府から該当領域の専門家を招聘し、講義と質疑応答および模擬WHO執行理事会の方式で介入演習を実施し、架空の議題をテーマに、決議案を含む会議文書の読解、対処方針の検討、交渉と会議での発言を、ロールプレイを通じて演習を行った。

令和4年度(三年度)は、すでに国際的に実用書としての位置付けを確立し、無償でウェブ公開されている「A GUIDE TO GLOBAL HEALTH DIPLOMACY」(イローナ・キックブッシュ他)を和文翻訳し、かつ単なる翻訳にとどまらず、翻訳監修プロセスそのものが国際保健外交を担う若手・中堅の人材育成の機会となるよう、国際保健外交の専門家による解説を交えながら、背後にある国際交渉の現実と交渉プロセスのニュアンスについて議論を行い、最新のグローバルヘルス外交についての知見・経験を共有することをねらいとし、全14回の

輪読会を開催した。さらに、令和4年12月に開催されたグローバルヘルス外交ワークショップでは、国内外の該当領域の専門家を招聘し、対面を基本とするハイブリッド形式で講義と演習を行った。講義の内容は、グローバルヘルス外交の概要や外交技術に関する講義に加えて、演習テーマに関連した医薬品アクセスと価格透明性に関する講義を加え、講義と演習が有機的に連動するようなプログラム構成とした。WHO執行理事会での介入を模した演習では、今年度新たに作成した「医薬品アクセスと価格の透明性」をテーマとする架空シナリオに基づき、会議文書の読解、対処方針の検討、加盟国との交渉と会議での発言の演習を行い、専門家および経験豊富な演習ファシリテーター陣からのフィードバックを得た。

#### (倫理面への配慮)

本研究は、人を対象とした研究ではないことから倫理審査の対象外である。

#### C. 研究結果

令和2年度(初年度)は、複雑化するグローバルヘルス外交の歴史的経緯を踏まえた上で、WHO主要会合並びに総会における討議内容や決議に関する情報を収集し、日本の介入を効果的に行う上でのガイドラインや教科書の作成につなげるため、2020年5月11日より全20回にわたり、グローバルヘルス外交に関する国際的な成書である Thomas E. Novotny, Ilona Kickbusch, Michaela Told 著「21st Century Global Health Diplomacy」の輪読会を行った。内容は、外交と健康との関わり、歴史、ガバナンスとアクター、外交手段、安全保障、軍隊の健康、人道支援、交渉の成功要因、国家と国

際協調、将来展望等である。参加者は研究班のメンバーに加えて、グローバルヘルス外交の実務者、行政官および研究者から募り、各議題について参加者の経験や意見交換をし、日本のグローバルヘルス外交の特徴、課題、将来の展望を抽出した。

さらに令和2年度に開催したワークショップ（新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン開催）では、輪読会での議論を踏まえて取り扱う課題を設定し、日本のみならず、WHO、タイ、ブラジルから該当領域の専門家を招聘し、講義と議論を行った。講義内容は、グローバルヘルス外交の歴史、国際会議での発言様式、介入の準備、発言原稿の形成、交渉の原則、日本の国連での介入の実例と課題、知的財産と公衆衛生の交渉課題、多様な機関とのパートナーシップと多岐にわたり、さらに、国際会議場での実践的発言演習を取り入れた研修を行った。参加者は、行政（厚生労働省、外務省）、国際協力機構、アカデミア、シンクタンク、非政府団体（NGO）、産業界などから、国際会議の経験のある、あるいは、参加予定はあるが国際会議の経験が少ない官民の中堅・若手実務者32名が参集した。また、令和3年度10月には、繰り越し事業として令和2年度のワークショップ参加者13名を対象に対面での国際会議での発言や交渉の模擬演習を行い、WHOなどの国際会議経験者からのフィードバックを得るワークショップを開催した。参加者からのフィードバックでは、ワークショップが国際会議における暗黙知を共有するにあたり有用な方法であることが確認された。

令和3年度（次年度）に実施されたケーススタディ輪読会では、米国ジョージタウン大学外交ケーススタディ教材を用いたグロ

ーバルヘルス外交の主要課題の中から、保健課題として「家族計画・人口問題」「官民連携」「新興感染症・健康危機」「知的財産、医薬品へのアクセス」「国際保健における支援の枠組み」を取り扱った。分析の結果、課題共通の日本のグローバルヘルス外交の強みとして、これまでの国際保健課題への関与を通して培ってきた実績と信頼がある、国際保健課題解決に活用できるような技術や政策実績がある、相手国での人材育成を含めた技術移転を行っている、国際保健課題について省庁横断的に協議するプラットフォームが形成されてきていることが挙げられた。課題としては今後日本が保有する技術や政策実績を国際保健課題の解決に活用していくにあたっては、相手国の需要や文化的背景を踏まえた持続可能な形での支援の提供、民間企業への国際保健市場への参入プロセスの支援などを通じた官民連携の促進、国際機関での規範設定の場への戦略的な人材抛出、政策モニタリングを通じた国内外の関係者や国民の共通理解を醸成していく必要性があげられた。

さらに令和3年度に実施されたグローバルヘルス外交ワークショップでは、国際保健外交やガバナンスを理解するために、日本とタイの国際保健外交史の講義の後、世界保健総会（WHA）や主要関連会合における決議作成プロセスに関する講義を行った。また、国益の主張と国際益との調和の難しさを理解するために、交渉術に関するノウハウの講義、過去の主要保健議題に基づくケーススタディに関するオンライン講義を実施した。対面式演習では、世界保健総会（WHA）や主要関連会合における決議作成プロセスに関する概要説明の後、実践的なスキル習得のために、模擬WHO執行理事

会方式で介入の演習を行った。具体的には、本ロールプレイ演習のために用意した WHO 執行理事会における架空の議題（砂糖税）をテーマに、決議案を含む会議文書の読解、対処方針の検討、他国との交渉、会議での発言などを、一連のロールプレイを通じて、各国の意見が対立する中、どのように自国の主張を行い、意思決定に反映させるかといった実践的な演習を行った。

令和4年度（三年度）は、ジュネーブ国際・開発研究大学院が出版した「A GUIDE TO GLOBAL HEALTH DIPLOMACY: Better health – improved global solidarity – more equity」を教材化するため、2022年6月から全14回に渡り輪読会を開催し、翻訳監修を行った他、各章のテーマ毎に、背景となった外交交渉の裏事情について、該当する決議文や報告書などから資料提供しながら参加者による議論を行った。令和4年度はさらに、輪読会で抽出された国際保健用語集及び翻訳チェックをベースとして、本研究班の分担研究者が文体や専門用語の解釈を含む全体監修を行い、教材を作成した。本教材は、グローバルヘルス外交がパンデミック条約をはじめとする様々な国際場裏での交渉が活発化している中、最新の動向と国際保健外交用語を統一した上で、グローバルヘルス外交のハンドブックとなるような日本語の実践的教材となることが期待され、さらに今後のグローバルヘルス外交ワークショップにおいても必須教材として活用される予定である。

同4年度に実施したグローバルヘルス外交ワークショップは、前年度に引き続き、対面およびオンライン講義形式で行った。対面式演習では、世界保健総会（WHA）や主要関連会合における決議作成プロセスに関

する概要説明の後、実践的なスキル習得のために、本ロールプレイ演習のために用意した WHO 執行理事会における架空の議題をテーマに模擬執行理事会方式で介入の演習を実施した。具体的には、今年度は現代のグローバルヘルス外交において重要課題の一つである「医薬品のアクセスと価格の透明性」をテーマにした架空のシナリオを作成し、参加者は、数名ずつのチームに分かれ各国の代表団（米国、スウェーデン、ザンビア、インドの4か国）として演習を行い、国際会議において経験豊富な講師陣が対面で効果的な介入方法について指導した。令和4年度に作成した「医薬品アクセスと価格透明性」をテーマとした演習シナリオは、地政学的変化が顕在化したポストコロナ時代におけるグローバルヘルス外交の実際を体験するにあたり有用な教材となった。本ワークショップのような対面でのロールプレイ演習は、国際会議での暗黙知を共有するために効果的な方法であり、今後も継続して実施していく予定である。

#### D. 健康危険情報

該当なし

#### E. 研究発表

##### 1. 論文発表

該当なし

##### 2. 学会発表

該当なし

#### F. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

##### 1. 特許取得

該当なし

##### 2. 実用新案登録



該当なし

### 3. その他

#### 参考資料

- (資料 1) Global Health Diplomacy Workshop (2020) Book of Abstracts
- (資料 2) Global Health Diplomacy Workshop (2021) Book of Abstracts
- (資料 3) Global Health Diplomacy Workshop (2022) Book of Abstracts
- (資料 4) 「グローバルヘルス外交の手引き」日本語版

## 別添4

## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
	(該当なし)						

## 雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
	(該当なし)				



# Global Health Diplomacy Workshop 2020

Venue: | 12-13  
Online(Zoom) | December

## Book of Abstracts



Institute for Global Health Policy Research,  
National Center for Global Health and Medicine(NCGM)

MAIL: [ighp\\_event@hosp.ncgm.go.jp](mailto:ighp_event@hosp.ncgm.go.jp)

# Resource Persons

Dr. Suwit Wibulpolprasert (Thai) Ministry of Public Health, Thailand	Prof. Hiroyasu Iso (Japan) Institute for Global Health Policy Research (iGHP), NCGM
Dr. Warisa Panichkriangkrai (Thai) International Health Policy Program, Thailand	Prof. Hiroki Nakatani (Japan) Human Resource Strategy Center for Global Health (HRC-GH), NCGM
Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (Thai) Ministry of Foreign Affairs, Thailand	Prof. Yaushi Katsuma (Japan) Department of Global Health Affairs & Governance, iGHP, NCGM
Dr. Attaya Limwattanayingyong (Thai) Ministry of Public Health, Thailand	Dr. Tamami Umeda (Japan) Bureau of International Health Cooperation, NCGM
Mr. Nilo Dytz Filho (Switzerland) Minister Counsellor, Permanent Mission of Brazil, Geneva	Dr. Hidechika Akashi (Japan) Department of Health Planning and Management, NCGM
Mr. Issa Matta (Switzerland) WHO Office of the Legal Counsel	Dr. Haruka Sakamoto (Japan), Keio University
Dr. Satoshi Ezoe, MOFA (Japan)	Ms. Aya Ishizuka (Japan), iGHP, NCGM
Dr. Yui Sekitani, MHLW (Japan)	

	Time	Session Title / Speakers	Session focus
Day 1 (12 Dec, Saturday)	8:50-9:00	Sign-in	Registration and house keeping matters to be explained
	9:00-9:30	Self-introduction Course objectives ( Prof. Iso )	Self Introduction Overview of the workshop
	9:30-10:20	Overview of global health diplomacy (Dr. Suwit & Dr. Attaya , Prof. Katsuma)	Thailand's history on and investments in global health. Using global health platforms and diplomacy to drive national interests
	Break (20 min)		
	10:40-12:00	WHO and its role in global health governance <Session in Japanese > (Prof. Nakatani)	Structure, functions, and governing bodies Navigating the Document systems
	Lunch (60 min)		
	13:00-14:15	Preparing for WHA and drafting of interventions (Dr. Warisa, Dr. Sekitani, Dr. Sakamoto)	Forming national positions Making interventions: dos and don'ts
	Break (30 min)		
	14:45-16:45	Mocked up intervention (role play exercise) (Prof. Nakatani)	Delivering interventions at WHA (participants deliver an intervention as if they are a representative from Japan or non-state actor)
	16:45-17:00	Recap of the day <Session in Japanese > (Prof. Iso, Prof. Nakatani)	
Day 2 (13 Dec, Sunday)	Time	Session Title / Speakers	Session focus
	8:50-9:00	Recap of Day 1	One lucky participant to provide a summary of what they learned in Day 1
	9:00-10:00	Introduction to negotiations (Mr. Charlie)	Negotiation in global health: the principles
	Break (30 min)		
	10:30-12:00	Real life negotiations: Case studies of difficult negotiations 1 <Session in Japanese > (Dr. Ezo)	Negotiations behind a resolution: Universal Health Coverage
	Lunch (60 min)		
	13:00-14:00	Real life negotiations: Case studies of difficult negotiations 2 (Mr. Filho)	Negotiations behind drafting of a resolution: Access to medicines
	14:00-15:00	WHO Partnerships, Networks and Alliances: Challenges and Opportunities (Mr. Matta)	Navigating the politics and governance of a multilateral agency
	Break (30 min)		
	15:30-16:30	Interactive Q&A (Mr. Filho, Mr. Matta)	
16:30-17:00	Wrap up <Session in Japanese > (Prof. Iso, Prof. Nakatani)	Course summary and comments Feedback on the course from participants	



## Dr. Suwit Wibulpolprasert

### Affiliation

International Health Policy Program, Bangkok

### Profile

Dr. Suwit Wibulpolprasert is a public health specialist, administrator and policy advocate at national and global level. He began his career as a Director and practitioner in rural areas and has various technical and administrative experience in Thai FDA, the Bureau of Health Policy and Plan, Deputy Permanent Secretary and the senior expert in Disease Control.

He has been proactively working in public health area more than 3 decades from the grass root to the highest policy level. In parallel with working for the development of health in country, he is one of global health leader who is well-known in the public eye as the fore front fighter to protect the benefit of the poors. At present, he is the Board Member of the National Health Security Office, the National Electronics and Computer Technology Center, and the National Nanotechnology Centre, the member of the National Science and Technology development committee.

Dr. Suwit is also the Vice Chair of the International Health Policy Program Foundation (IHPF) and the Health Intervention and Technology Assessment Foundation (HITAF), the chair of the Yothi Medical Innovation District, the Chair of the Institute for the Development of Human Research Protections Foundation (IHRPF), and the Chair of the Health and Society Creation Foundation.

Dr. Suwit is one of the most experienced health system specialist and has involved and contributed in Thailand's health system development for decades. He always reiterates that health systems can become more equitable, inclusive and fair through primary health care strengthening. Clear evidences from many developed countries tell us that we are now in the right direction to focus on primary health care, not the institutional care. The success is not all about money but the most important is the heart and the spirit of the health personnel.

### Lecture summary

Dr. Suwit associates the session with Dr. Attaya Limwattanayingyong.

The session will start with current role of Thailand in global health. (in various platforms and issues)

How Thailand come thus far? (as a global health leader)

In this part, we will reveal the landscape of the health sector players and health system in Thailand. How the domestic health system successfully developed in parallel with our investment in global health capacity building.

To build up and strengthen GH capacities, we use INNE model. (Individual/Node/Network/Environment)

We continue strengthening GH capacity of public health practitioners, inter-sectoral partners and members of civil society and private sectors by using WHO governing bodies, and other GH forum, as real-life practising platforms. We have been engaged in global policy formulation and practising negotiations in all GH forums. Furthermore we realise the importance of long term sustainability of the GH development, we institutionalize and establish GH network among MOPH, universities, PH agencies and other sectors (MFA, MOC)

### Reading list

1. UNDP. (1997). *Capacity Development*. New York: UNDP.
2. Limwattanayingyong A, Thailand and its Development of Global Health System. In: Rojanapithayakorn W, editors. Thailand Health Profile.2016-2017. Bangkok: Sangchan Publishing; 2017. p. 269-298.
3. Tiantong S, Limwattanayingyong A, Wibulpolprasert S, Vedrasco L, Kertesz D. Towards optimal collaboration: reforming the WHO country cooperation strategy in Thailand. Bull World Health Organ 2019;97:642–644.



## Dr. Attaya Limwattanayingyong

### Affiliation

International Health Policy Program, Bangkok

### Profile

Dr. Attaya Limwattanayingyong is the Assistant Director of the Division of the Communicable diseases, DDC, Thailand. She is now responsible for COVID 19 response in strategic advisory group and the member of MOPH COVID 19 Vaccine Procurement Committee. Trained in Pediatrics and Master of Science in clinical epidemiology. She served five years as a pediatrician and then moved to work in public health area specialized in immunization field, policy development, health system and global health.

She has a wide variety of experience in immunization from vaccine policy at national level to the implementation in the field as the national EPI manager and deputy director of the National Vaccine Institute.

She also has experiences in policy development and health system, for example, the development of new vaccine introduction mechanism of Thailand, health system reform, pandemic preparedness and disaster management, Thailand's innovative model of WHO-CCS. In 2018-2019, she was seconded to WHO by Thai government as technical advisor to share Thailand's experiences in health system development, support other countries in implementing UHC and support global movement on UHC to the UNGA.

Apart from her expertise in immunization, policy development and health system, she has been working on global health policies and global health capacity building for several years actively involved in many global health policy platforms (UNGA, WHA, EB, ASEAN, G7, PMAC) as the ministry team leader and country delegation. She also served as national manager of Thailand's global health strategy and WHO-CCS program of global health diplomacy. She has been contributing for global health capacity building program of Thailand and some Asian countries as a coach for novices and course director/manager. (Global Health Diplomacy Program, Training of the Trainer, Speech writer, Global Health Scholar, mentoring system for WHA and other GH platforms)

### Lecture summary

Dr. Attaya associates the session with Dr. Suwit Wibulpolprasert.

The session will start with current role of Thailand in global health. (in various platforms and issues)

How Thailand come thus far? (as a global health leader)

In this part, we will reveal the landscape of the health sector players and health system in Thailand. How the domestic health system successfully developed in parallel with our investment in global health capacity building.

To build up and strengthen GH capacities, we use INNE model. (Individual/Node/Network/Environment)

We continue strengthening GH capacity of public health practitioners, inter-sectoral partners and members of civil society and private sectors by using WHO governing bodies, and other GH forum, as real-life practising platforms. We have been engaged in global policy formulation and practising negotiations in all GH forums. Furthermore we realise the importance of long term sustainability of the GH development, we institutionalize and establish GH network among MOPH, universities, PH agencies and other sectors (MFA, MOC)

### Reading list

1. UNDP. (1997). *Capacity Development*. New York: UNDP.
2. Limwattanayingyong A, Thailand and its Development of Global Health System. In: Rojanapithayakorn W, editors. Thailand Health Profile.2016-2017. Bangkok: Sangchan Publishing; 2017. p. 269-298.
3. Tiantong S, Limwattanayingyong A, Wibulpolprasert S, Vedrasco L, Kertesz D. Towards optimal collaboration: reforming the WHO country cooperation strategy in Thailand. Bull World Health Organ 2019;97:642–644.



## Dr. Yasushi Katsuma

Affiliation	Institute for Global Health Policy Research (iGHP), Tokyo, National Center for Global Health and Medicine (NCGM), Tokyo
Profile	<p>Dr. Yasushi Katsuma is Director of the Department of Global Health Affairs &amp; Governance at the Institute for Global Health Policy Research (iGHP) in the National Center for Global Health &amp; Medicine (NCGM), Japan. He is also Professor in the International Studies Program of the Graduate School of Asia-Pacific Studies (GSAPS) at Waseda University in Tokyo, while serving the University as a member of its Board of Trustees. He is also Professor and Co-Director of the Master's Program in Global Leadership at Vietnam-Japan University (VJU) in Hanoi. In addition, he is Visiting Professor at the United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS).</p> <p>Prior to the current positions, Prof. KATSUMA worked for the United Nations Children's Fund (UNICEF), based in Mexico, Pakistan, Afghanistan and Tokyo.</p> <p>Prof. KATSUMA received his Ph.D. (Development) from the College of Agricultural &amp; Life Sciences in the University of Wisconsin-Madison; LL.M. &amp; LL.B. from Osaka University; and B.A. from International Christian University, after studying at the University of California-San Diego.</p> <p>Prof. KATSUMA's areas of expertise are global health affairs and governance, human security and child rights. His recent publications include the following: <i>Leave No One Behind: Time for Specifics on the Sustainable Development Goals</i> (Brookings Institution Press, 2019; co-authored); "Next steps towards universal health coverage call for global leadership," <i>The BMJ</i> (2019; 365: l2107; co-authored); "Challenges in achieving the Sustainable Development Goal on good health and well-being: Global health governance as an issue for the means of implementation," <i>Asia-Pacific Development Journal</i> (Vol.23, No.2, 2016; co-authored).</p>
Lecture summary	<p>The "Global Health and Human Security Program" is one of the most innovative public-private partnership platforms, taking a whole-of-society approach to discuss global health policy and strategies among the relevant stakeholders in Japan. In this session, the resource person will (1) review the background of this Program, with focus on the challenges in global health policy making in Japan, (2) explain the roles of the Japan Center for International Exchange (JCIE) that serves as the secretariat for this Program, and describe how this Program has evolved in the last decade, and (3) analyze opportunities to make contributions to global health policy making.</p>
Reading list	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Katsuma, Yasushi. "A whole-of-society approach to global health policy in Japan : 'Global health and human security program' of the Japan Center for International Exchange (JCIE)," <i>Journal of Asia-Pacific Studies</i> (Waseda University) No. 27 (October 2016), pp.117-124. <a href="http://hdl.handle.net/2065/51582">http://hdl.handle.net/2065/51582</a></li> <li>2. Katsuma, Yasushi. "Global health diplomacy to promote universal health coverage at the 2019 Osaka G20 Summit," AJISS-Commentary, No.275, (September 2019). <a href="https://www2.jiia.or.jp/en_commentary/201909/27-1.html">https://www2.jiia.or.jp/en_commentary/201909/27-1.html</a></li> <li>3. 城山英明編著『グローバル保健ガバナンス』東信堂(2020年8月) .</li> </ol>





## Dr. Hiroki Nakatani

Affiliation	Keio University Global Research Institute, Tokyo
Profile	<p>In the past five years, Dr. Hiroki Nakatani has held academic positions in Japan as Project Professor at the Global Research Institute of Keio University and Invited Professor at Osaka University Post Graduate School of Medicine. He is the former Chair of the Executive Board, WHO. Currently, Dr. Nakatani also serves in various national and international organizations as Chair, Board of Directors, Global Health Innovative Technology Fund (GHIT Fund); Senior-Advisor, Economic Research Institute for ASEAN and East Asia (ERIA) ; Director, Hub on Population Ageing, Association of Pacific Rim Universities (APRU); Member, Board of Directors, National Center for Global Health and Medicine; and Director, Human Resource Strategy Center for Global Health. He is a veteran public health specialist for over 40 years, who started his career at the Ministry of Health, Labour and Welfare in Japan. He worked extensively in health policy, public health, international health, and health science and technology. His national career includes serving as Director-General of Health and Welfare Services in Hiroshima Prefecture, where he was in charge of integrating health and welfare services in preparation for the arrival of a rapidly ageing society.</p> <p>Regarding international career, he served the WHO Headquarters twice. From March 2007 to May 2015, he served as Assistant Director-General of WHO, leading the largest technical cluster of HIV/AIDS, Tuberculosis, Malaria and Neglected Tropical Diseases. Dr. Nakatani received his MD from Keio University School of Medicine, MHPed from the University of New South Wales, and a Ph.D. from Keio University.</p>
Lecture summary	<p>The first session, "WHO and its role in global health governance, " aims to achieve the following objectives : (1) to understand global health's complex architecture with special attention to UN agencies' roles, particularly WHO; (2) to understand the governance and operation style in different organizations, i.e., intergovernmental organizations and partnerships; (3) to gain practical skills to be an influential contributor in governing body meetings. This starts by analyzing the massive volume of background paper in a relatively short time. Participants are invited to visit the WHO governing bodies website (Ref.2) before coming to class. This experience will make participants miserable initially, but after the session, everyone will feel encouraged.</p> <p>The second session, Mockup intervention, aims at being an influential contributor in the official meeting. The four-step approach will be practiced; (1) Reviewing the background paper; (2) Digesting the instruction given by the Government after inter-ministerial discussion; (3) Drafting intervention and making actual intervention to fellow participants. At each step, there are seasoned hints and skills. They are shared, and Mock interviews enable participants to improve each one's intervention by practice and constructive comments among fellow participants.</p>
Reading list	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. WHO: Basic Document Forty-ninth Edition,2020 <a href="https://apps.who.int/gb/bd/pdf_files/BD_49th-en.pdf">https://apps.who.int/gb/bd/pdf_files/BD_49th-en.pdf</a></li> <li>2. WHO: Governing Bodies website <a href="https://apps.who.int/gb/gov/">https://apps.who.int/gb/gov/</a></li> <li>3. United Nations: Model United Nations <a href="https://www.un.org/en/node/44583/book">https://www.un.org/en/node/44583/book</a></li> <li>4. グローバル・クラスルーム日本委員会: 模擬国連マニュアル <a href="http://jcgcc.accu.or.jp/manual.pdf">http://jcgcc.accu.or.jp/manual.pdf</a></li> </ol>



## Dr. Warisa Panichkriangkrai

### Affiliation

International Health Policy Program, Ministry of Public Health, Bangkok

### Profile

Dr. Warisa Panichkriangkrai is a researcher at International Health Policy Program (IHPP), Ministry of Public Health, Thailand. She served as dentist at a district hospital in rural area where she gained excessive experience on health system at ground root level for 6 years. She then decided to enroll for the Master degree in Public Health at Mahidol University in 2007.

In late 2009, Dr. Warisa joined IHPP as young fellow and was awarded the WHO fellowship in 2010 for her PhD at the London School of Hygiene & Tropical Medicine, University of London, United Kingdom. Her thesis topic was "teenage pregnancy in Thailand".

After received PhD in 2014, she has involved with health system research. She is now working on health policy and system research fellowship which aims to boost capacity of young Thai researchers to generate evidence for policy makers. Another working area is global health. She is the program manager of WHO Country Cooperation Strategy on Global Health Diplomacy (CCS-GHD) which one of its focusing areas is capacity building on global health to Thai and international partners. The annual Global Health Diplomacy workshop is one of key activities under CCS-GHD.

### Lecture summary

Forming national positions: This session will focus on the process in developing national position which includes finding inputs, forming position and developing statement to be delivered at the global platform based on Thailand's experience.

### Reading list

Special procedures, EXECUTIVE BOARD (Special session on the COVID-19 response)

[https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf\\_files/EBSS5/EBSS5\\_4-en.pdf](https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf_files/EBSS5/EBSS5_4-en.pdf)



## Dr. Yui Sekitani

### Affiliation

Ministry of Health, Labour and Welfare, Tokyo

### Profile

Dr. Sekitani has more than 10 years of experience in public health, clinical practice, research, and public administration. She has been working on global health affairs, including coordination between the Japanese government and the WHO, other international agencies and countries. She also has served as the coordinator for global health crisis at the health ministry responding to the Ebola outbreak in West Africa. Prior to her career as a public officer, she was a consultant at the World Health Organization. She received her MD from Juntendo University, MPH from Harvard T.H. Chan School of Public Health, MPA from UC Berkeley Goldman School of Public Policy, and a PhD from Nagasaki University.

### Lecture summary

The lecture aims to understand Japan's preparation process for the WHO's governing body meetings and gain practical skills to make an effective intervention at these meetings. The preparation includes consultation with stakeholders to develop a national position and a statement. Participants are invited to visit the WHO governing bodies website and watch recorded sessions.

### Reading list

1. Seventy-third World Health Assembly Documents Website [https://apps.who.int/gb/e/e\\_wha73.html](https://apps.who.int/gb/e/e_wha73.html)
2. Seventy-third World Health Assembly Recorded Sessions Website <https://www.who.int/about/governance/world-health-assembly/seventy-third-world-health-assembly>



## Dr. Haruka Sakamoto

### Affiliation

Keio University, Tokyo

### Profile

Haruka SAKAMOTO, MD MPH, is a primary care physician and assistant professor at the Department of Health Policy and Management, Keio University. She got her M.D from Sapporo Medical University and worked as a physician at St Luke's International Hospital in Tokyo for several years. She then got a scholarship from the World Bank and got her MPH at the Harvard T.H Chan School of Public Health. From 2011-2013 and 2016, she worked at the international cooperation department, Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan, where she was deeply involved in health policy activities in Japan. As part of the work, she participated in WHO meetings, G7 meetings, and bilateral cooperation activities through JICA (Japan International Cooperation Agency). She's also currently working at Gates Foundation Tokyo Office, World Health Organization and World Bank as a consultant, and Department of Global Health Policy, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo as a project researcher. Her current research focuses on health system strengthening, health care financing, and politics in global health.

### Lecture summary

Many people are unfamiliar with an intervention at international conferences and have no idea what is the "format" of an intervention. In this lecture, I will show you what to include in your intervention, starting with the format of interventions you should make at international conferences (mainly at the WHO meetings). On the other hand, I will tell you about some bad things you better not to say (don't).



## Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn

### Affiliation

Ministry of Foreign Affairs of Thailand, Bangkok

### Profile

Dr. Charlie Garnjana-Goonchorn joined the Ministry of Foreign Affairs in 2007. He started his career working at the Treaty Division overseeing various aspects of Thailand's treaty making process. During his post at the Permanent Mission of Thailand to the UN in Geneva, he was in charge of extensive areas of work, including those within the purview of WHO and UNCTAD. After returning to Thailand in 2017, he has played a key role in several international disputes involving the Royal Thai Government, in addition to providing legal advice related to international trade, investment treaties, dispute settlement mechanisms and arbitration.

### Lecture summary

The lecture will run through the basic principles of negotiation, explore how to use negotiation skills in a multilateral context especially in Global Health Diplomacy. The lecture will also highlight what negotiators should be looking out for, what are the usual traps, and how to address them.



## Dr. Satoshi Ezo

### Affiliation

Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan, Tokyo

### Profile

Dr. Satoshi Ezo currently serves as Director, Global Health Policy Division, International Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs (MOFA), since August 2020. Prior to joining MOFA, he was engaged in health care and public health policy in the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan, including in the areas of global health, universal health insurance system, non-communicable diseases including mental health and cancer control. He was seconded to UNAIDS Headquarters in Geneva (2009-2012). He was the first appointed Senior Coordinator for Global Health (2015- 2017), where he was involved in the WHO emergency reform, coordinating health agendas for the G7 Ise-Shima Summit in 2016. He was most recently Counsellor of the Permanent Mission of Japan to the United Nations (2017-2020), where he was instrumental in facilitating UN General Assembly High-Level Meetings on tuberculosis (2018) and universal health coverage (2019). He is a Medical Doctor with PhD, and received Master of Public Health and Master in Public Administration from the Harvard University.

### Lecture summary

On 23 September 2019, world leaders at the United Nations (UN) General Assembly High-Level Meeting on Universal Health Coverage unanimously approved the Political Declaration of the High-Level Meeting on Universal Health Coverage, described by UN Secretary-General António Guterres as “the most comprehensive agreement ever reached on global health”. This historic agreement reiterates a number of key principles, including the importance of health for implementation of all the goals and targets of the 2030 Agenda for Sustainable Development. World leaders recommitted themselves to achieving universal health coverage by 2030 and to scaling up global efforts to build a healthier world for all. The high-level meeting and its political declaration were the result of a series of concerted multi-stakeholder efforts. This lecture touches upon the relevant processes as a case study from the point of view of a key negotiator who were closely involved in the planning and negotiations that led to this landmark agreement.

### Reading list

Essential:

1. S. Ezo, T. Tchelidze, N. Premabhuti, M. Costa. “The Political Declaration of the High-Level Meeting on Universal Health Coverage (2019): negotiating the most comprehensive agreement ever reached on global health”, The Global Health Diplomacy Case Study edited by Ilona Kickbusch, Mihaly Kokeny, and Haik Nikogosyan (Forthcoming, In Press). (See attached)
2. Prime Minister Shinzo Abe’s participation in the UN High-Level Meeting on Universal Health Coverage (UHC) English: [https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page6e\\_000218.html](https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page6e_000218.html) Japanese: [https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ghp/page4\\_005303.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ghp/page4_005303.html)
3. Political declaration of the high-level meeting on universal health coverage, Universal health coverage: moving together to build a healthier world  
English: <https://undocs.org/en/A/RES/74/2> Japanese: [http://kyokuhp.ncgm.go.jp/topics/2020/UN\\_UHC\\_J\\_2020925.pdf](http://kyokuhp.ncgm.go.jp/topics/2020/UN_UHC_J_2020925.pdf)

\*As available:

(In Japanese) 第6章 UHC 主流化に向けた国際動向と日本の取組み—国連総会 UHC ハイレベル会合を中心として (江副聡). 城山英明編著. グローバル保健ガバナンス. 東信堂. 2020 <https://www.toshindo-pub.com/book/91653/>

Key Resources:

<https://www.un.org/pga/73/event/universal-health-coverage/>  
<https://www.uhc2030.org/un-hlm-2019/>

Recommended:

1. Address by Prime Minister Suga at the Seventy-Fifth Session of the United Nations General Assembly. MOFA. September 26, 2020 English: [https://www.mofa.go.jp/fp/unp\\_a/page4e\\_001095.html](https://www.mofa.go.jp/fp/unp_a/page4e_001095.html)  
Japanese: [https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/unp\\_a/page4\\_005200.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/unp_a/page4_005200.html)
2. Minister MOTEGI Toshimitsu co-hosted Ministerial Meeting of Group of Friends of Universal Health Coverage (UHC). MOFA. October 8, 2020 English: [https://www.mofa.go.jp/press/release/press4e\\_002929.html](https://www.mofa.go.jp/press/release/press4e_002929.html)  
Japanese: [https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6\\_000683.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000683.html)
3. H. Sakamoto, S. Abe, S. Ezo. Abe’s legacy – Japan’s contribution to global health. October 30, 2020, BMJ GH Blogs <https://blogs.bmj.com/bmjgh/2020/10/30/abes-legacy-japans-contribution-to-global-health/>
4. Abe S. Japan's vision for a peaceful and healthier world. Lancet. 2015 Dec 12;386(10011):2367-9 (English/Japanese) [https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page18e\\_000126.html](https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page18e_000126.html)
5. Approval of Basic Design for Peace and Health (Global Cooperation). MOFA. September 11, 2015 (English/Japanese) [https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page22e\\_000761.html](https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page22e_000761.html)
6. Kotono Hara, Satoshi Ezo. Why does global health matter to diplomacy? Global Health Governance, Vol. XIII, No. 1 (SPRING 2019) <http://blogs.shu.edu/ghg/files/2019/11/Spring-Fall-2019-Issue.pdf#page=23>



## Mr. Nilo Dytz Filho

### Affiliation

Permanent Mission of Brazil to the United Nations and other international organizations in Geneva

### Profile

Brazilian career diplomat since 1998.

Since September 2017, head of the health and labor teams at the Permanent Mission of Brazil in Geneva.

Vice-Chair of the WHO Program, Budget and Administration Committee (2019-2020).

Vice-Chair of the Government Group at the International Labor Organization – ILO (2019-2020).

Spokesperson for the Latin American and Caribbean in ILO (2018-2019).

Led the Office for International Affairs of Brazil's Superior Court of Justice in Brasilia (2016-2017).

Posted to the Embassy of Brazil in Caracas (2014-2016), the Permanent Delegation of Brazil to UNESCO in Paris (2011-2014), and the Permanent Delegation of Brazil to the UN in Geneva (responsible for WTO dispute settlement issues – 2004-2007).

Top advisor for Latin America and the Caribbean at the Office of the Minister of Foreign Affairs of Brazil (2008-2010).

Worked at the Trade Policy Division (2000-2001) and the Office for Dispute Settlement (2001-2004) of the Foreign Affairs Ministry in Brasilia.

Graduated in Law in 1997.

### Lecture summary

As per the program, the lecture is intended to provide an overview from a real-life experience on the negotiations that led to the adoption of recent decisions by the WHO Executive Board and World Health Assembly on the *Global Strategy and Plan of Action on Public Health, Intellectual Property and Innovation*.

The presentation will aim to give the participants relevant information on the evolving global health agenda on access to medicines and other medical products, including crosscutting issues concerning intellectual property.

### Reading list

1. [https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf\\_files/WHA73/A73\(11\)-en.pdf](https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf_files/WHA73/A73(11)-en.pdf)
2. [https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf\\_files/WHA71/A71\(9\)-en.pdf](https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf_files/WHA71/A71(9)-en.pdf)
3. [https://www.who.int/health-topics/intellectual-property#tab=tab\\_1](https://www.who.int/health-topics/intellectual-property#tab=tab_1)
4. <https://www.who.int/news/item/20-04-2020-joint-statement-by-wto-director-general-roberto-azevedo-and-who-director-general-tedros-adhanom-ghebreyesus>
5. [https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf\\_files/WHA71/A71\\_13-en.pdf?ua=1](https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf_files/WHA71/A71_13-en.pdf?ua=1)
6. [https://www.who.int/medicines/access\\_use/road-map-medicines-vaccines/en/](https://www.who.int/medicines/access_use/road-map-medicines-vaccines/en/)
7. [https://www.wto.org/english/tratop\\_e/trips\\_e/pharmpatent\\_e.htm](https://www.wto.org/english/tratop_e/trips_e/pharmpatent_e.htm)



## Mr. Issa Matta

### Affiliation

World Health Organization, Geneva

### Profile

Dr. Issa Matta is Senior Legal Officer in the WHO Office of the Legal Counsel. He has been with the Organization for over 15 years. Prior to that he worked as lawyer at the Global Fund to Fight HIV, TB and Malaria. Issa has significant private sector experience that he acquired as corporate counsel at the pharmaceutical firm Merck-Serono, and as in-house attorney with the consulting firm Andersen. He started his legal career as a junior commercial lawyer in a leading international New York based law firm in Abu Dhabi, UAE. Issa has a Juris Doctorate degree from the University of Virginia School of Law, USA. He is admitted an attorney-at-law to the New York bar. Prior to his legal studies, Issa specialized in international relations with a focus on the Middle East. His principal responsibilities at WHO include legal and governance support to WHO partnerships and alliances, engagement with the private sector and general commercial and contractual legal matters. He is currently the alternate Board representing WHO on the Roll Back Malaria and Unitaid Boards. He is a US & French national of Palestinian / Lebanese origin.

### Lecture summary

The lecture will focus on the opportunities and challenges that WHO encounters in the context of partnerships and alliances that it hosts and those that it engages with. Most often such collaborative arrangements do not have their own legal personality and rely on WHO's administrative framework or that of another agency. The governance structures of partnerships and alliances allow for innovative and broader multi-stakeholder collaboration. However, since the accountability to Member States is not as strong or exclusive, policies and strategies that they may be adopt may cause tension with the host organization and place burden on its administration.



**NCGM**  
National Center for Global Health and Medicine



INSTITUTE FOR GLOBAL HEALTH POLICY RESEARCH

# Global Health Diplomacy Workshop 2021 **Book of Abstracts**



**Date: 18-19, December**

**Venue: Zoom Meeting & AP Higashi-Shinjuku**

**Institute for Global Health Policy Research,  
National Center for Global Health and Medicine(NCGM)**

**MAIL: [ighp\\_event@hosp.ncgm.go.jp](mailto:ighp_event@hosp.ncgm.go.jp)**

## <Purpose>

In the 2021 Ministry of Health, Labour and Welfare's Health and Labour Sciences Research Grant "Study for the Establishment of Strategic and Effective Intervention Methodologies for International Conferences (20BA1002)," the research team aims to analyze the history behind current issues in global health, examine global health diplomacy trends of Japan and other nations, establish strategic intervention methodologies for Japan, and develop an effective global health diplomacy educational program. In addition, the research team aims to work with the Ministry of Health, Labour and Welfare (MHLW), Ministry of Foreign Affairs (MOFA), Japan International Cooperation Agency (JICA), and other global health policy organizations and research institutions overseas to develop more realistic and effective interventions, as well as educational materials and training programs. Amidst the geopolitical changes caused by the global pandemic of a novel coronavirus disease (COVID-19), there is an urgent need to cultivate human resources who can advocate for global health at the global level in harmony with international and national interests. This workshop was designed and will be implemented to help achieve such goals.

## <Target audience>

The workshop is open to young and mid-level public and private sector practitioners who are planning to participate in a governing body meeting of international organizations and have little experience in such international meetings.

Possible affiliations include MHLW, MOFA, JICA, NCGM, universities, think tanks, NGOs, etc. Expect number of participants: 20 participants and observers (both on a recommendation basis)

## <Objectives and Goals>

In order to develop human resources who can strategically intervene in the discussion of global health issues and effectively advocate Japan's position at the World Health Assembly and other international conferences, the following educational objectives have been established

1. Understand governance in international organizations (UN, UN specialized agencies, partnerships).
2. Understand the pre-conference national coordination and conference preparation process.
3. Understand the standard rules for international meetings.
4. To be able to speak effectively at international meetings.
5. Acquire techniques for reflecting one's own arguments in international conference decision-making
6. Nourish an attitude for harmonizing international and national interests
7. Understand the unspoken rules/tactics international conferences



## <Date and time>

December 18-19, 2021

## <Style>

Online lecture and in-person roleplay exercise

## <Venue>

Afternoon only on both days:

AP Higashishinjuku

Tokyu Stay Shinjuku Eastside 3F,

2-3-24 Kabukicho, Shinjuku, 1600021, Japan

## <Language>

Sessions with only Japanese instructors will be conducted in Japanese, and sessions involving overseas instructors will be conducted in English. (Simultaneous interpretation will not be provided.)

## <Workshop Contents>

1. Overview on global health diplomacy
  - The Case of Japan and Thailand
2. Resolution-making process and effective interventions (interventions, speaking methods)
  - How to read the resolution documents
  - How to prepare for an effective intervention
    - i. Examples from Japan and Thailand
  - Practicing Intervention
3. How to take the initiative in negotiations
  - Learning from past negotiation cases and personal experiences of resource persons

\* As part of the research, we will ask for feedbacks from the participants as to evaluate our curriculum.

# Course Schedule Overview

Day 1, Saturday, 18 December 2021		
Online (9:00-11:40) & On-Site (13:00-17:00)		
Time	Session Title	Speakers
8:50-9:00	Sign-in on zoom online	
9:00-9:30	*Self-introduction and course objectives	Prof. Hiroyasu Iso (Japan)
9:30-10:25	*World Health Organization and its role in global health governance (lecture) *Q&A in Japanese	Prof. Hiroki Nakatani (Japan)
10:25-10:45	*Overview of global health diplomacy (lecture) *Q&A in English	Prof. Suwit Wibulpolprasert & Dr. Attaya Limwattanayingyong (Thailand)
10:45-11:40	*Preparing for WHA and drafting of interventions 1 (lecture)	Dr. Warisa Panichkriangkrai (Thailand)
	*Preparing for WHA and drafting of interventions 2 (lecture)	Dr. Yui Sekitani (Japan)
	*Preparing for WHA and drafting of interventions 3 (lecture) *Q&A in English/Japanese	Dr. Haruka Sakamoto (Japan)
11:40-13:00	Travelling to the workshop venue	
13:00-13:15	Briefing on role-play sessions	Dr. Tamami Umeda
13:15-15:40	Team deliberation (50 min) Bilateral meeting role-play (60 min) Team deliberation (35 min)	Group facilitators
15:40-16:00	Break	
16:00-16:40	*Mock-up Session (Plenary #1)	Chair: Prof. Hiroki Nakatani Feedback from resource persons
16:40-17:00	Team deliberation	Group facilitators

\*Sessions online by zoom

Red=Lectures in English; Purple = Roleplay sessions in English (Japanese language may be used occasionally)

# Course Schedule Overview

Day 2, Sunday, 19 December 2021		
Online (8:50-11:30) & On-site (13:00-17:00)		
Time	Session Title	Speakers
8:50-9:00	*Recap of Day 1 (Online)	Dr. Eiko Saito
9:00-9:30	*Using global health platforms and diplomacy to drive national interests (lecture) *Q&A in Japanese	Prof. Yasushi Katsuma (Japan)
9:30-10:25	*Introduction to negotiations (lecture) *Q&A in English	Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (Thailand)
10:25-10:35	Break	
10:35-11:30	*Real life negotiations: Case studies of difficult negotiations (lecture) *Q&A in English	Dr. Satoshi Ezo (Japan)
11:30-13:00	Travelling to the workshop venue	
13:00-13:20	Team deliberation	
13:20-15:20	*Mock-up Session (Working Group)	Chair Country: TBD Feedback from resource persons
15:20-15:45	Break	Networking
15:45-16:30	*Mock-up Session (Plenary #2)	Chair: Prof. Hiroki Nakatani Feedback from resource persons
16:35-17:00	Wrap-up	Prof. Hiroyasu Iso

\*Sessions online by zoom

Red=Lectures in English; Purple = Roleplay sessions in English (Japanese language may be used occasionally)

**Dr. Suwit Wibulpolprasert** (Thailand)

Vice Chair, International Health Policy Program Foundation (IHPF) , Health Intervention and Technology Assessment Foundation (HITAF) , International Health Policy Program (IHPP Thailand) , Ministry of Public Health, Thailand

**Dr. Attaya Limwattanayingyong** (Thailand)

Communicable Diseases Division, Department of Disease Control, Ministry of Public Health, Thailand

**Dr. Warisa Panichkriangkrai** (Thailand)

International Health Policy Program (IHPP Thailand) , Thailand

**Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn** (Thailand)

Ministry of Foreign Affairs, Thailand

**Dr. Satoshi Ezo** (Japan)

Ministry of Foreign Affairs, Japan

**Dr. Yui Sekitani** (Japan)

Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan

**Prof. Kazuaki Miyashima** (France)

Visiting Professor, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Japan

**Prof. Hiroyasu Iso** (Japan)

Director, Institute for Global Health Policy Research (iGHP) ,  
National Center for Global Health and Medicine (NCGM)

**Prof. Hiroki Nakatani** (Japan)

Director, Human Resource Strategy Center for Global Health (HRC-GH) , NCGM

**Prof. Yaushi Katsuma** (Japan)

Director, Department of Global Health Affairs & Governance, iGHP, NCGM

**Dr. Tamami Umeda** (Japan)

Visiting researcher, iGHP, NCGM

**Dr. Hidechika Akashi** (Japan)

Director, Department of Health Planning and Management, NCGM

**Dr. Kenichi Komada** (Japan)

Assistant Director, Bureau of International Health Cooperation,  
National Center for Global Health and Medicine, Japan (NCGM)

**Dr. Haruka Sakamoto** (Japan)

Associate professor at the Department of International Cooperation and Tropical Medicine,  
Tokyo Women's Medical University

**Dr. Mariko Hosozawa** (Japan)

Senior Researcher, Department of Global Health Metrics and Evaluation, iGHP, NCGM

**Dr. Eiko Saito** (Japan)

Senior Research Fellow, iGHP, NCGM

\*NCGM Secretariat will also participate to assist the operation during the workshop.



## Prof. Hiroki Nakatani

### Affiliation

Keio University Global Research Institute

### Profile

In the past five years, Dr. Hiroki Nakatani has held academic positions in Japan as Project Professor at the Global Research Institute of Keio University and Invited Professor at Osaka University Post Graduate School of Medicine. He is the former Chair of the Executive Board, WHO. Currently, Dr. Nakatani also serves in various national and international organizations as Chair, Board of Directors, Global Health Innovative Technology Fund (GHIT Fund); Senior-Advisor, Economic Research Institute for ASEAN and East Asia (ERIA); Director, Hub on Population Ageing, Association of Pacific Rim Universities (APRU); Member, Board of Directors, National Center for Global Health and Medicine; and Director, Human Resource Strategy Center for Global Health. He is a veteran public health specialist for over 40 years, who started his career at the Ministry of Health, Labour and Welfare in Japan. He worked extensively in health policy, public health, international health, and health science and technology. His national career includes serving as Director-General of Health and Welfare Services in Hiroshima Prefecture, where he was in charge of integrating health and welfare services in preparation for the arrival of a rapidly ageing society. Regarding international career, he served the WHO Headquarters twice. From March 2007 to May 2015, he served as Assistant Director-General of WHO, leading the largest technical cluster of HIV/AIDS, Tuberculosis, Malaria and Neglected Tropical Diseases. Dr. Nakatani received his MD from Keio University School of Medicine, MHPed from the University of New South Wales, and a Ph.D. from Keio University.

### Lecture summary

The first session, "WHO and its role in global health governance," aims to achieve the following objectives: (1) to understand global health's complex architecture with special attention to UN agencies' roles, particularly WHO; (2) to understand the governance and operation style in different organizations, i.e., intergovernmental organizations and partnerships; (3) to gain practical skills to be an influential contributor in governing body meetings. This starts by analyzing the massive volume of background paper in a relatively short time. Participants are invited to visit the WHO governing bodies website (Ref.2) before coming to class. This experience will make participants miserable initially, but after the session, everyone will feel encouraged. The second session, Mockup intervention, aims at being an influential contributor in the official meeting. The four-step approach will be practiced; (1) Reviewing the background paper; (2) Digesting the instruction given by the Government after inter-ministerial discussion; (3) Drafting intervention and making actual intervention to fellow participants. At each step, there are seasoned hints and skills. They are shared, and Mock interviews enable participants to improve each one's intervention by practice and constructive comments among fellow participants.

### Reading list

1. WHO: Basic Document Forty-ninth Edition, 2020 [https://apps.who.int/gb/bd/pdf\\_files/BD\\_49th-en.pdf](https://apps.who.int/gb/bd/pdf_files/BD_49th-en.pdf)
2. WHO: Governing Bodies website <https://apps.who.int/gb/gov/>
3. United Nations: Model United Nations <https://www.un.org/en/node/44583/book>
4. グローバル・クラスルーム日本委員会：模擬国連マニュアル <http://jcgcc.accu.or.jp/manual.pdf>



## Dr. Suwit Wibulpolprasert

### Affiliation

International Health Policy Program, Bangkok

### Profile

Dr. Suwit Wibulpolprasert is a public health specialist, administrator and policy advocate at national and global level. He began his career as a Director and practitioner in rural areas and has various technical and administrative experience in Thai FDA, the Bureau of Health Policy and Plan, Deputy Permanent Secretary and the senior expert in Disease Control.

He has been proactively working in public health area more than 3 decades from the grass root to the highest policy level. In parallel with working for the development of health in country, he is one of global health leader who is well-known in the public eye as the fore front fighter to protect the benefit of the poors. At present, he is the Board Member of the National Health Security Office, the National Electronics and Computer Technology Center, and the National Nanotechnology Centre, the member of the National Science and Technology development committee.

Dr. Suwit is also the Vice Chair of the International Health Policy Program Foundation (IHPF) and the Health Intervention and Technology Assessment Foundation (HITAF), the chair of the Yothi Medical Innovation District, the Chair of the Institute for the Development of Human Research Protections Foundation (IHRPF), and the Chair of the Health and Society Creation Foundation.

Dr. Suwit is one of the most experienced health system specialist and has involved and contributed in Thailand's health system development for decades. He always reiterates that health systems can become more equitable, inclusive and fair through primary health care strengthening. Clear evidences from many developed countries tell us that we are now in the right direction to focus on primary health care, not the institutional care. The success is not all about money but the most important is the heart and the spirit of the health personnel.

### Lecture summary

Dr. Suwit associates the session with Dr. Attaya Limwattanayingyong.

The session will start with current role of Thailand in global health. (in various platforms and issues) How Thailand come thus far? (as a global health leader)

In this part, we will reveal the landscape of the health sector players and health system in Thailand. How the domestic health system successfully developed in parallel with our investment in global health capacity building.

To build up and strengthen GH capacities, we use INNE model. (Individual/Node/Network/Environment)

We continue strengthening GH capacity of public health practitioners, inter-sectoral partners and members of civil society and private sectors by using WHO governing bodies, and other GH forum, as real-life practising platforms.

We have been engaged in global policy formulation and practising negotiations in all GH forums. Furthermore we realise the importance of long term sustainability of the GH development, we institutionalize and establish GH network among MOPH, universities, PH agencies and other sectors (MFA, MOC)

### Reading list

1. UNDP. (1997). Capacity Development. New York: UNDP.
2. Limwattanayingyong A, Thailand and its Development of Global Health System. In: Rojanapithayakorn W, editors. Thailand Health Profile.2016-2017. Bangkok: Sangchan Publishing; 2017. p. 269-298.
3. Tiantong S, Limwattanayingyong A, Wibulpolprasert S, Vedrasco L, Kertesz D. Towards optimal collaboration: reforming the WHO country cooperation strategy in Thailand. Bull World Health Organ 2019;97:642–644.



## Dr. Attaya Limwattanayingyong

### Affiliation

International Health Policy Program, Bangkok

### Profile

Dr. Attaya Limwattanayingyong is the Assistant Director of the Division of the Communicable diseases, DDC, Thailand. She is now responsible for COVID 19 response in strategic advisory group and the member of MOPH COVID 19 Vaccine Procurement Committee. Trained in Pediatrics and Master of Science in clinical epidemiology. She served five years as a pediatrician and then moved to work in public health area specialized in immunization field, policy development, health system and global health.

She has a wide variety of experience in immunization from vaccine policy at national level to the implementation in the field as the national EPI manager and deputy director of the National Vaccine Institute.

She also has experiences in policy development and health system, for example, the development of new vaccine introduction mechanism of Thailand, health system reform, pandemic preparedness and disaster management, Thailand's innovative model of WHO-CCS. In 2018-2019, she was seconded to WHO by Thai government as technical advisor to share Thailand's experiences in health system development, support other countries in implementing UHC and support global movement on UHC to the UNGA.

Apart from her expertise in immunization, policy development and health system, she has been working on global health policies and global health capacity building for several years actively involved in many global health policy platforms (UNGA, WHA, EB, ASEAN, G7, PMAC) as the ministry team leader and country delegation. She also served as national manager of Thailand's global health strategy and WHO-CCS program of global health diplomacy. She has been contributing for global health capacity building program of Thailand and some Asian countries as a coach for novices and course director/manager. (Global Health Diplomacy Program, Training of the Trainer, Speech writer, Global Health Scholar, mentoring system for WHA and other GH platforms)

### Lecture summary

Dr. Attaya associates the session with Dr. Suwit Wibulpolprasert.

The session will start with current role of Thailand in global health. (in various platforms and issues) How Thailand come thus far? (as a global health leader)

In this part, we will reveal the landscape of the health sector players and health system in Thailand. How the domestic health system successfully developed in parallel with our investment in global health capacity building. To build up and strengthen GH capacities, we use INNE model. (Individual/Node/Network/Environment)

We continue strengthening GH capacity of public health practitioners, inter-sectoral partners and members of civil society and private sectors by using WHO governing bodies, and other GH forum, as real-life practising platforms. We have been engaged in global policy formulation and practising negotiations in all GH forums. Furthermore we realise the importance of long term sustainability of the GH development, we institutionalize and establish GH network among MOPH, universities, PH agencies and other sectors (MFA, MOC)

### Reading list

1. UNDP. (1997). Capacity Development. New York: UNDP.
2. Limwattanayingyong A, Thailand and its Development of Global Health System. In: Rojanapithayakorn W, editors. Thailand Health Profile.2016-2017. Bangkok: Sangchan Publishing; 2017. p. 269-298.
3. Tiantong S, Limwattanayingyong A, Wibulpolprasert S, Vedrasco L, Kertesz D. Towards optimal collaboration: reforming the WHO country cooperation strategy in Thailand. Bull World Health Organ 2019;97:642–644.



## Dr. Warisa Panichkriangkrai

### Affiliation

Researcher : International Health Policy Program, Ministry of Public Health, Thailand  
Deputy Director: Global Health Division, Ministry of Public Health, Thailand

### Profile

Dr. Warisa Panichkriangkrai is a researcher at International Health Policy Program (IHPP), Ministry of Public Health, Thailand. She served as dentist at a district hospital in rural area where she gained excessive experience on health system at ground root level for 6 years. She then decided to enroll for the Master degree in Public Health at Mahidol University in 2007.

In late 2009, Dr.Warisa joined IHPP as young fellow and was awarded the WHO fellowship in 2010 for her PhD at the London School of Hygiene&Tropical Medicine, University of London, United Kingdom. Her thesis topic was “teenage pregnancy in Thailand”.

After received PhD in 2014, she has involved with health system research. She is now working on health policy and system research fellowship which aims to boost capacity of young Thai researchers to generate evidence for policy makers. Another working area is global health. She is the program manager of WHO Country Cooperation Strategy on Global Health Diplomacy (CCS-GHD) which one of its focusing areas is capacity building on global health to Thai and international partners. The annual Global Health Diplomacy workshop is one of key activities under CCS-GHD.

### Lecture summary

Forming national positions: This session will focus on the process in developing national position which includes finding inputs, forming position and developing statement to be delivered at the global platform based on Thailand’s experience.

### Reading list

Special procedures, EXECUTIVE BOARD (Special session on the COVID-19 response)  
[https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf\\_files/EBSS5/EBSS5\\_4-en.pdf](https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf_files/EBSS5/EBSS5_4-en.pdf)





## Dr. Yui Sekitani

Affiliation	Ministry of Health, Labour and Welfare
Profile	<p>Dr. Sekitani has more than 10 years of experience in public health, clinical practice, research, and public administration. She has been working on global health affairs, including coordination between the Japanese government and the WHO, other international agencies and countries. She also has served as the coordinator for global health crisis at the health ministry responding to the Ebola outbreak in West Africa. Prior to her career as a public officer, she was a consultant at the World Health Organization. She received her MD from Juntendo University, MPH from Harvard T.H. Chan School of Public Health, MPA from UC Berkeley Goldman School of Public Policy, and a PhD from Nagasaki University.</p>
Lecture summary	<p>The lecture aims to understand Japan's preparation process for the WHO's governing body meetings and gain practical skills to make an effective intervention at these meetings. The preparation includes consultation with stakeholders to develop a national position and a statement. Participants are invited to visit the WHO governing bodies website and watch recorded sessions.</p>
Reading list	<ol style="list-style-type: none"><li>1. Seventy-fourth World Health Assembly Documents Website <a href="https://apps.who.int/gb/e/e_wha74.html">https://apps.who.int/gb/e/e_wha74.html</a></li><li>2. Seventy-fourth World Health Assembly Recorded Sessions Website <a href="https://www.who.int/about/governance/world-health-assembly/seventy-fourth-world-health-assembly">https://www.who.int/about/governance/world-health-assembly/seventy-fourth-world-health-assembly</a></li></ol>



## Dr. Haruka Sakamoto

### Affiliation

Tokyo Women's Medical University

### Profile

Haruka SAKAMOTO, MD MPH, PhD, is a primary care physician and associate professor at the Department of International Cooperation and Tropical Medicine, Tokyo Women's Medical University. She got her M.D from Sapporo Medical University and worked as a physician at St Luke's International Hospital in Tokyo for several years. She then got a scholarship from the World Bank and got her MPH at the Harvard T.H Chan School of Public Health. From 2011-2013 and 2016, she worked at the international cooperation department, Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan, where she was deeply involved in health policy activities in Japan. As part of the work, she participated in WHO meetings, G7 meetings, and bilateral cooperation activities through JICA (Japan International Cooperation Agency). She recently got PhD from University of Tokyo, and she's also currently working at Gates Foundation Tokyo Office, and World Health Organization as a consultant, and Department of Global Health Policy, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo as a project researcher. Her current research focuses on health system strengthening, health care financing, and politics in global health.

### Lecture summary

Many people are unfamiliar with an intervention at international conferences and have no idea what is the "format" of an intervention. In this lecture, I will show you what to include in your intervention, starting with the format of interventions you should make at international conferences (mainly at the WHO meetings). On the other hand, I will tell you about some bad things you better not to say (don't).



## Prof. Yaushi Katsuma

**Affiliation** Institute for Global Health Policy Research (iGHP),  
National Center for Global Health and Medicine (NCGM)

**Profile** Yasushi KATSUMA is Director of the Department of Global Health Affairs & Governance at the Institute for Global Health Policy Research (iGHP) in the National Center for Global Health & Medicine (NCGM), Japan. He is also Professor in the International Studies Program of the Graduate School of Asia-Pacific Studies (GSAPS) at Waseda University in Tokyo, while serving the University as a member of its Board of Trustees. He is also Professor and Co-Director of the Master's Program in Global Leadership at Vietnam-Japan University (VJU) in Hanoi. In addition, he is Visiting Professor at the United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS).

Prior to the current positions, Prof. KATSUMA worked for the United Nations Children's Fund (UNICEF), based in Mexico, Pakistan, Afghanistan and Tokyo.

Prof. KATSUMA received his Ph.D. (Development) from the College of Agricultural & Life Sciences in the University of Wisconsin-Madison; LL.M. & LL.B. from Osaka University; and B.A. from International Christian University, after studying at the University of California-San Diego.

Prof. KATSUMA's areas of expertise are global health affairs and governance, human security and child rights. His recent publications include the following: Leave No One Behind: Time for Specifics on the Sustainable Development Goals (Brookings Institution Press, 2019; co-authored); "Next steps towards universal health coverage call for global leadership," The BMJ (2019; 365: l2107; co-authored); "Challenges in achieving the Sustainable Development Goal on good health and well-being: Global health governance as an issue for the means of implementation," Asia-Pacific Development Journal (Vol.23, No.2, 2016; co-authored).

**Lecture summary** The World Health Organization (WHO) is a major UN specialized agency that supports inter-governmental arenas for global health diplomacy. However, as we face more complex challenges brought by COVID-19, other inter-governmental organizations are increasingly involved in global health issues. In this lecture, we will review some contemporary global health issues that are negotiated at other inter-governmental organizations, in partnership with the WHO. We will review issues such as (1) infectious disease outbreaks on international ships, (2) the proposal for intellectual property waiver during the pandemic at the World Trade Organization (WTO)-TRIPS, and (3) the one health approach jointly taken by the WHO, the World Organization for Animal Health (OIE) and the Food and Agriculture Organization of the UN (FAO).

- Reading list**
1. Katsuma, Yasushi. (2021), "Global health governance issues to be addressed jointly by Japan and Germany," JDZB ECHO, 136, September, pp.1-2. <https://jdzbd.de/en/mediacenter/echo/136>
  2. Katsuma, Yasushi. (2019), "Global health diplomacy to promote universal health coverage at the 2019 Osaka G20 Summit," AJISS-Commentary, No.275, (September). [https://www2.jiia.or.jp/en\\_commentary/201909/27-1.html](https://www2.jiia.or.jp/en_commentary/201909/27-1.html)
  3. 城山英明編著 (2020) 『グローバル保健ガバナンス』 東信堂.



## Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn

**Affiliation** Ministry of Foreign Affairs of Thailand

**Profile** Dr. Charlie Garnjana-Goonchorn joined the Ministry of Foreign Affairs in 2007. He started his career working at the Treaty Division overseeing various aspects of Thailand's treaty making process. During his post at the Permanent Mission of Thailand to the UN in Geneva, he was in charge of extensive areas of work, including those within the purview of WHO and UNCTAD. After returning to Thailand in 2017, he has played a key role in several international disputes involving the Royal Thai Government, in addition to providing legal advice related to international trade, investment treaties, dispute settlement mechanisms and arbitration.

**Lecture summary** The lecture will run through the basic principles of negotiation, explore how to use negotiation skills in a multilateral context especially in Global Health Diplomacy. The lecture will also highlight what negotiators should be looking out for, what are the usual traps, and how to address them.



## Dr. Satoshi Ezo

Affiliation	Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan
Profile	<p>Dr. Satoshi Ezo currently serves as Director, Global Health Policy Division, International Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs (MOFA), since August 2020. Prior to joining MOFA, he was engaged in health care and public health policy in the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan, including in the areas of global health, universal health insurance system, non-communicable diseases including mental health and cancer control. He was seconded to UNAIDS Headquarters in Geneva (2009-2012). He was the first appointed Senior Coordinator for Global Health (2015- 2017), where he was involved in the WHO emergency reform, coordinating health agendas for the G7 Ise-Shima Summit in 2016. He was most recently Counsellor of the Permanent Mission of Japan to the United Nations (2017-2020), where he was instrumental in facilitating UN General Assembly High-Level Meetings on tuberculosis (2018) and universal health coverage (2019). He is a Medical Doctor with PhD, and received Master of Public Health and Master in Public Administration from the Harvard University.</p>
Lecture summary	<p>On 23 September 2019, world leaders at the United Nations (UN) General Assembly High-Level Meeting on Universal Health Coverage unanimously approved the Political Declaration of the High-Level Meeting on Universal Health Coverage, described by UN Secretary-General António Guterres as “the most comprehensive agreement ever reached on global health”. This historic agreement reiterates a number of key principles, including the importance of health for implementation of all the goals and targets of the 2030 Agenda for Sustainable Development. World leaders recommitted themselves to achieving universal health coverage by 2030 and to scaling up global efforts to build a healthier world for all. The high-level meeting and its political declaration were the result of a series of concerted multi-stakeholder efforts. This lecture explains the relevant processes as a case study from the point of view of a key negotiator who were closely involved in the planning and negotiations that led to this landmark agreement.</p> <p>Also, the COVAX AMC Summit co-hosted by the Government of Japan and Gavi on June 2nd 2021 might be touched upon. Prime Minister Suga Yoshihide co-chaired the meeting with Mr. José Manuel Barroso, Gavi Board Chair, and Foreign Minister Motegi Toshimitsu took the role of facilitator during the Summit. This Summit was organized to raise additional funding to secure necessary vaccines for developing countries by the end of 2021, in order to ensure through the COVAX Facility equitable access to safe, effective and quality-assured vaccines thereby overcoming the COVID-19 pandemic.</p>
Reading list	<p>Essential:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Satoshi Ezo, et.al. (2021) “The Political Declaration of the High-Level Meeting on Universal Health Coverage (2019): Negotiating the most comprehensive agreement ever reached on global health”, A GUIDE TO GLOBAL HEALTH DIPLOMACY, Graduate Institute of International and Development Studies. (PP. 235-252) <a href="https://www.graduateinstitute.ch/sites/internet/files/2021-02/GHC-Guide.pdf">https://www.graduateinstitute.ch/sites/internet/files/2021-02/GHC-Guide.pdf</a></li> <li>2. Prime Minister Shinzo Abe’s participation in the UN High-Level Meeting on Universal Health Coverage (UHC)            English: <a href="https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page6e_000218.html">https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page6e_000218.html</a>            Japanese: <a href="https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ghp/page4_005303.html">https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ghp/page4_005303.html</a></li> </ol>

## Reading list

3. Political declaration of the high-level meeting on universal health coverage, Universal health coverage: moving together to build a healthier world  
English: <https://undocs.org/en/A/RES/74/2>  
Japanese: [http://kyokuhp.ncgm.go.jp/topics/2020/UN\\_UHC\\_J\\_2020925.pdf](http://kyokuhp.ncgm.go.jp/topics/2020/UN_UHC_J_2020925.pdf)
4. Outcome of the COVAX AMC Summit. MOFA. June 3, 2021  
English: [https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page1e\\_000326.html](https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page1e_000326.html)  
Japanese: [https://www.mofa.go.jp/mofaj/page1\\_000979.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/page1_000979.html)
5. Dr. EZOE Satoshi. "Toward New Solidarity in Global Health: Universal Health Coverage and Reform at the WHO" No.67, Diplomacy Oct. 27, 2021  
[https://www.japanpolicyforum.jp/pdf/2021/no67/DJweb\\_67\\_dip\\_02.pdf](https://www.japanpolicyforum.jp/pdf/2021/no67/DJweb_67_dip_02.pdf)  
Japanese: 江副聡 (2021) 「国際保健をめぐる新たな連帯へーユニバーサル・ヘルス・カバレッジとWHO改革」 『雑誌 外交』 Vol.65 Jan./Feb. 2021  
[http://www.gaiko-web.jp/test/wp-content/uploads/2021/01/Vol65\\_p100-105\\_New\\_solidarity\\_over\\_international\\_health.pdf](http://www.gaiko-web.jp/test/wp-content/uploads/2021/01/Vol65_p100-105_New_solidarity_over_international_health.pdf)
6. Japanese: 馬淵俊介、江副聡 (2021) 「「パニック&ネグレクト」を繰り返すなーワクチンへの公平なアクセスに向けた国際的展開」 『雑誌 外交』 Vol.69 Sep./Oct. 2021  
[http://www.gaiko-web.jp/test/wp-content/uploads/2021/09/Vol69\\_p110-117\\_Do\\_not\\_repeat\\_Panic\\_and\\_neglect.pdf](http://www.gaiko-web.jp/test/wp-content/uploads/2021/09/Vol69_p110-117_Do_not_repeat_Panic_and_neglect.pdf)

### Key Resources

UNGA HLM on UHC:

<https://www.un.org/pga/73/event/universal-health-coverage/>  
<https://www.uhc2030.org/un-hlm-2019/>

COVAX AMC Summit:

Recording of the Summit

<https://www.gavi.org/gavi-covax-amc-summit-2021>

Summary:

<https://www.gavi.org/vaccineswork/world-leaders-and-private-sector-commit-protecting-vulnerable-covid-19-vaccines>

### Recommended:

1. Address by Prime Minister Suga at the Seventy-Sixth Session of the United Nations General Assembly. MOFA. September 24, 2021  
English: [https://www.mofa.go.jp/fp/unp\\_a/page4e\\_001176.html](https://www.mofa.go.jp/fp/unp_a/page4e_001176.html)  
Japanese: [https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/unp\\_a/page4\\_005422.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/unp_a/page4_005422.html)
2. H. Sakamoto, S. Abe, S. Ezo. Abe's legacy – Japan's contribution to global health. October 30, 2020, BMJ GH Blogs  
<https://blogs.bmj.com/bmjgh/2020/10/30/abes-legacy-japans-contribution-to-global-health/>
3. Abe S. Japan's vision for a peaceful and healthier world. Lancet. 2015 Dec 12;386(10011):2367-9 (English/Japanese) [https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page18e\\_000126.html](https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page18e_000126.html)
4. Approval of Basic Design for Peace and Health (Global Cooperation). MOFA. September 11, 2015 (English/Japanese) [https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page22e\\_000761.html](https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page22e_000761.html)
5. Kotono Hara, Satoshi Ezo. Why does global health matter to diplomacy? Global Health Governance, Vol. XIII, No. 1 (SPRING 2019)  
<http://blogs.shu.edu/ghg/files/2019/11/Spring-Fall-2019-Issue.pdf#page=23>

### As available:

江副聡 (2020) 「6章 UHC主流化に向けた国際動向と日本の取組み」、  
城山英明編 『グローバル保健ガバナンス』 東信堂



**NCGM**  
National Center for Global Health and Medicine



INSTITUTE FOR GLOBAL HEALTH POLICY RESEARCH

# Global Health Diplomacy Workshop 2022 **Book of Abstracts**



**Date: 17-18, December**  
**Venue: Zoom Meeting & AP Nishi-Shinjuku**

**Institute for Global Health Policy Research,  
National Center for Global Health and Medicine(NCGM)**

MAIL: [ighp\\_event@hosp.ncgm.go.jp](mailto:ighp_event@hosp.ncgm.go.jp)

## <Purpose>

In the 2022 Ministry of Health, Labour and Welfare's Health and Labour Sciences Research Grant "Study for the Establishment of Strategic and Effective Intervention Methodologies for International Conferences (20BA1002)," the research team aims to analyze the history behind current issues in global health, examine global health diplomacy trends of Japan and other nations, establish strategic intervention methodologies for Japan, and develop an effective global health diplomacy educational program. In addition, the research team aims to work with the Ministry of Health, Labour and Welfare (MHLW), Ministry of Foreign Affairs (MOFA), Japan International Cooperation Agency (JICA), and other global health policy organizations and research institutions overseas to develop more realistic and effective interventions, as well as educational materials and training programs. Amidst the geopolitical changes caused by the global pandemic of a novel coronavirus disease (COVID-19), there is an urgent need to cultivate human resources who can advocate for global health at the global level in harmony with international and national interests. This workshop was designed and will be implemented to help achieve such goals.

## <Target audience>

The workshop is open to young and mid-level public and private sector practitioners who are planning to participate in a governing body meeting of international organizations and have little experience in such international meetings. Possible affiliations include MHLW, MOFA, JICA, NCGM, universities, think tanks, NGOs, etc.

Expected number of participants: 20 participants and observers (both on a recommendation basis)

## <<Objectives and Goals>

In order to develop human resources who can strategically intervene in the discussion of global health issues and effectively advocate Japan's position at the World Health Assembly and other international conferences, the following educational objectives have been established

1. Understand governance in international organizations (UN, UN specialized agencies, partnerships).
2. Understand the pre-conference national coordination and conference preparation process.
3. Understand the standard rules for international meetings.
4. To be able to speak effectively at international meetings.
5. Acquire techniques for reflecting one's own arguments in international conference decision-making
6. Nourish an attitude for harmonizing international and national interests
7. Understand the unspoken rules/tactics at international conferences



## <Date and time>

December 17-18, 2022

## <Style>

In-person/online lectures and in-person roleplay exercise

## <Venue>

AP Nishi-shinjuku

5F Shinjuku Kifu Building, 7-2-4 Nishishinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0023  
Japan

## <Language>

Sessions with only Japanese instructors will be conducted in Japanese, and sessions involving overseas instructors will be conducted in English.

(Simultaneous interpretation will not be provided.)

## <Workshop Contents>

1. Overview on global health diplomacy
2. Resolution-making process and effective interventions (interventions, speaking methods)
  - How to read the resolution documents
  - How to prepare for an effective intervention
    - i. Examples from Japan and Thailand
  - Practicing Intervention
3. How to take the initiative in negotiations
  - Learning from past negotiation cases and personal experiences of resource persons

\* As part of the research, we will ask for feedback from the participants to evaluate our curriculum.

# Course Schedule Overview

Day 1, Saturday, 17 December 2022		
Time	Session Title	Speakers
8:50-9:00	Sign-in on zoom online	
9:00-9:30	Self-introduction and course objectives	Prof. Hiroyasu Iso (Japan)
9:30-10:15	*World Health Organization and its role in global health governance (lecture) *Q&A in Japanese	Prof. Hiroki Nakatani (Japan)
10:15-10:30	Break	
10:30-11:10	*Forming a national position: Japan's case (lecture) *Q&A in Japanese	Dr. Takashi Suzuki (Japan)
	*Intervention: dos and don'ts *Q&A in Japanese	Dr. Haruka Sakamoto (Japan)
11:10-11:50	*Recent trends and challenges in access to medicines and other health products in global health (lecture) *Q&A in Japanese	Dr. Daisuke Koga (Japan)
11:50-13:00	Lunch	
13:00-13:15	Briefing on role-play sessions	Dr. Tamami Umeda
13:15-14:15	Team deliberation (60 min)	Group facilitators
14:15-14:45	*Mock-up Session (Plenary #1) (30 min)	Chair: Prof. Hiroki Nakatani Feedback from resource persons
14:45-15:15	Break for team deliberation and bilateral meetings as necessary (30 min)	Group facilitators
15:15-17:00	*Mock-up Session (Working Group #1) Break during the session (10 min)	Chair Country: TBD Feedback from resource persons

\*Sessions online by zoom

Red=Lectures in English; Purple = Roleplay sessions in English (Japanese language may be used occasionally)

# Course Schedule Overview

Day 2, Sunday, 18 December 2022		
Time	Session Title	Speakers
9:30-9:40	Recap of Day 1	Dr. Eiko Saito
9:40-10:20	*G7 taskforce on 100 days mission to respond to future pandemic threats (lecture) *Q&A in Japanese	Dr. Osamu Kunii (GHIT, Japan)
10:20-10:30	Break	
10:30-11:30	*Introduction to negotiations (lecture) *Q&A in English	Prof. Suwit Wibulpolprasert Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (Thailand)
11:30-11:40	Break	
11:40-12:20	*Real-life negotiations: Case studies of difficult negotiations (lecture) *Q&A in Japanese/English	Dr. Satoshi Ezo (Japan)
12:20-13:30	Lunch	
13:30-14:40	Team deliberation	Group facilitators
14:40-15:00	Break	
15:00-15:45	*Mock-up Session (Working Group #2)	Chair Country: TBD Feedback from resource persons
15:45-16:00	Break	
16:00-16:45	*Mock-up Session (Plenary #2)	Chair: Prof. Hiroki Nakatani Feedback from resource persons
16:45-17:00	Wrap-up Feedback Survey Closing Remarks	Wrap-up (Dr. Umeda) Feedback Survey (Dr. Saito) Closing (Prof. Iso)

\*Sessions online by zoom

Red=Lectures in English; Purple = Roleplay sessions in English (Japanese language may be used occasionally)

**Dr. Takashi Suzuki (Japan)**

Senior Coordinator for Global Health, International Affairs Division, Minister's Secretariat, Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan

**Dr. Daisuke Koga (Japan)**

Division Director, Division of Planning and Management, Office of International Programs, Pharmaceuticals and Medical Devices Agency

**Dr. Osamu Kunii (Japan)**

CEO, Global Health Innovative Technology Fund

**Dr. Suwit Wibulpolprasert (Thailand)**

Vice Chair, International Health Policy Program Foundation (IHPF), Health Intervention and Technology Assessment Foundation (HITAF), International Health Policy Program (IHPP Thailand), Ministry of Public Health, Thailand

**Mr. Charlie Garnjana-Goonchorn (Thailand)**

Deputy Consul-General, Royal Thai Consulate-General, Sydney

**Dr. Satoshi Ezo (Japan)**

Director, Global Health Strategy Division, Ministry of Foreign Affairs, Japan

**Prof. Kazuaki Miyagishima (France)**

Visiting Professor, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Japan

**Prof. Hiroyasu Iso (Japan)**

Director, Institute for Global Health Policy Research (iGHP), National Center for Global Health and Medicine (NCGM)

**Prof. Hiroki Nakatani (Japan)**

Director, Human Resource Strategy Center for Global Health (HRC-GH), NCGM

**Dr. Tamami Umeda (Japan)**

Visiting researcher, iGHP, NCGM

**Dr. Yuta Yokobori (Japan)**

Assistant Director, Division of Partnership Development, Department of Global Network and Partnership, Bureau of International Health Cooperation, NCGM

**Dr. Haruka Sakamoto (Japan)**

Associate professor, Section of Global Health, Department of Hygiene and Public Health, Tokyo Women's Medical University

**Dr. Mariko Hosozawa (Japan)**

Senior Researcher, Department of Global Health Metrics and Evaluation, iGHP, NCGM

**Dr. Eiko Saito (Japan)**

Senior Research Fellow, iGHP, NCGM

\*NCGM Secretariats will also participate to assist the operation during the workshop.



## Dr. Takashi SUZUKI

Title	MD, MSC
Affiliation	International Affairs Division, Minister's Secretariat, Ministry of Health, Labour and Welfare
Profile	<p>Takashi SUZUKI, MD, MSc is Senior Coordinator for Global Health of the Ministry of Health, Labour and Welfare, Japan. He has more than 10 years of experience as public officer and experienced 3 Japanese ministries including Ministry of Defense and Ministry of Environment. Currently He has been working on global health affairs, including coordination between the Japanese government and the WHO, other international agencies and countries. He received his BA from Keio University, MD from Kanazawa University and MSc from The University of Tokyo.</p>
Lecture summary	<p>The lecture aims to understand Japan's preparation process for the WHO's governing body meetings and gain practical skills to make an effective intervention at these meetings.</p>
Reading list	<ol style="list-style-type: none"><li>1. WHA 75 Documents Website <a href="https://apps.who.int/gb/e/e_wha75.html">https://apps.who.int/gb/e/e_wha75.html</a></li><li>2. EB 152 Documents Website <a href="https://apps.who.int/gb/e/e_eb152.html">https://apps.who.int/gb/e/e_eb152.html</a></li><li>3. WPR RCM <a href="https://www.who.int/westernpacific/about/governance/regional-committee/session-73/documents">https://www.who.int/westernpacific/about/governance/regional-committee/session-73/documents</a></li><li>4. WHO Basic Documents <a href="https://apps.who.int/gb/bd/">https://apps.who.int/gb/bd/</a></li></ol>



## Dr. Daisuke Koga

Title	Division Director, Division of Planning and Management, Office of International Programs
Affiliation	Pharmaceuticals and Medical Devices Agency (PMDA)
Profile	<p>Mr. Daisuke Koga is Division Director, Division of Planning and Management, Division of Regulatory Cooperation and Division of Asia II, Office of International Programs, Pharmaceuticals and Medical Devices Agency (PMDA) of Japan.</p> <p>He started his career at the Ministry of Health and Welfare of Japan in 1996. He worked in the area of drugs, medical devices, food additives and controlled substances, and for the coordination of the research grant by the Ministry. From 2007 to 2010, he worked as Coordination Officer for review and premarket authorization of new drugs and vaccines at Division of Evaluation and Licensing in Pharmaceutical and Food Safety Bureau. From 2011 to 2014, he served as Technical Officer at WHO HQ in Geneva for the WHO Programme for International Drug Monitoring. After coming back to Japan, he served as a Deputy Director at the office of Global Health Cooperation, International Affairs Division, MHLW until March 2020.</p>
Lecture summary	<p>Health products play critical role in health care system and therefore access to medicines and other health products has long been discussed in WHA and other global fora as one of key global health agenda. The session: “Recent trends and challenges in access to medicines and other health products in global health” is focusing on the resolution WHA72.8 (2019) entitled “Improving the transparency of markets for medicines, vaccines, and other health products” and introduces discussions around access to health products in WHA.</p>
Reading list	<ol style="list-style-type: none"><li>1. WHO: Resolution WHA72.8 (2019) <a href="https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf_files/WHA72/A72_R8-en.pdf">https://apps.who.int/gb/ebwha/pdf_files/WHA72/A72_R8-en.pdf</a></li><li>2. NCGM国際医療協力局：決議WHA72.8日本語仮訳 p.33-35, 第72回世界保健総会 決議／決定文（日本語仮訳） <a href="https://kyokuhp.ncgm.go.jp/library/who/2019/WHA72.pdf">https://kyokuhp.ncgm.go.jp/library/who/2019/WHA72.pdf</a></li></ol>



## Dr. Osamu Kunii

Title	CEO
Affiliation	Global Health Innovative Technology Fund
Profile	<p>Dr. Osamu Kunii, MD, Ph.D., MPH, is currently serving as CEO and Executive Director of the Global Health Innovative Technology Fund (GHIT), which promotes R&amp;D of therapeutics, diagnostics and vaccines against infectious diseases such as neglected tropical diseases, tuberculosis and malaria. In the past 30 years he has been engaged in global health, especially infectious diseases control, humanitarian emergencies, maternal and child health, health diplomacy, and health policy/strategy development through the Global Fund, UNICEF, academia, Japanese Ministry of Foreign Affairs and other institutions. He is currently appointed as Chair of the Working Group of “100 Days Mission Plus” under the Global Health Taskforce to G7 Summit to be hosted by Japan in 2023.</p>
Lecture summary	<p>The 2021 G7 Summit in UK agreed on the ambitious mission called “100 Days Mission” to have safe and effective vaccines, therapeutics and diagnostics within 100 days of a future pandemic started.</p> <p>As Japan hosts the next G7 Summit in 2023, Professor Keizo Takemi, Member of the House of Councillors initiated the Global Health Taskforce for Hiroshima G7 Summit to present recommendations to the Japanese government on global health. As the vice chair of the Taskforce and the Chair of the 100 Days Mission Working Group, the speaker will talk on whether this mission is achievable, what are bottlenecks, how to overcome them, and what are Japan’s roles.</p>
Reading list	<ol style="list-style-type: none"><li>1. .UK Govvernement. Policy paper Joint statement on delivering the 100 Days Mission <a href="https://www.gov.uk/government/publications/joint-statement-on-delivering-the-100-days-mission">https://www.gov.uk/government/publications/joint-statement-on-delivering-the-100-days-mission</a></li><li>2. CEPI 100 Day Mission <a href="https://100days.cepi.net/">https://100days.cepi.net/</a></li><li>3. Bill Gates. No More Pandemics. May 2022 <a href="https://www.gatesnotes.com/How-to-Prevent-the-Next-Pandemic">https://www.gatesnotes.com/How-to-Prevent-the-Next-Pandemic</a></li></ol>



## Dr. Suwit Wibulpolprasert

### Affiliation

International Health Policy Program, Bangkok

### Profile

Dr. Suwit Wibulpolprasert is a public health specialist, administrator and policy advocate at national and global level. He began his career as a Director and practitioner in rural areas and has various technical and administrative experience in Thai FDA, the Bureau of Health Policy and Plan, Deputy Permanent Secretary and the senior expert in Disease Control.

He has been proactively working in public health area more than 3 decades from the grass root to the highest policy level. In parallel with working for the development of health in country, he is one of global health leader who is well-known in the public eye as the fore front fighter to protect the benefit of the poors. At present, he is the Board Member of the National Health Security Office, the National Electronics and Computer Technology Center, and the National Nanotechnology Centre, the member of the National Science and Technology development committee.

Dr. Suwit is also the Vice Chair of the International Health Policy Program Foundation (IHPF) and the Health Intervention and Technology Assessment Foundation (HITAF), the chair of the Yothi Medical Innovation District, the Chair of the Institute for the Development of Human Research Protections Foundation (IHRPF), and the Chair of the Health and Society Creation Foundation.

Dr. Suwit is one of the most experienced health system specialist and has involved and contributed in Thailand's health system development for decades. He always reiterates that health systems can become more equitable, inclusive and fair through primary health care strengthening. Clear evidences from many developed countries tell us that we are now in the right direction to focus on primary health care, not the institutional care. The success is not all about money but the most important is the heart and the spirit of the health personnel.

### Lecture summary

Dr. Suwit associates the session with Dr. Attaya Limwattanayingyong.

The session will start with current role of Thailand in global health. (in various platforms and issues) How Thailand come thus far? (as a global health leader)

In this part, we will reveal the landscape of the health sector players and health system in Thailand. How the domestic health system successfully developed in parallel with our investment in global health capacity building.

To build up and strengthen GH capacities, we use INNE model. (Individual/Node/Network/Environment)

We continue strengthening GH capacity of public health practitioners, inter-sectoral partners and members of civil society and private sectors by using WHO governing bodies, and other GH forum, as real-life practising platforms.

We have been engaged in global policy formulation and practising negotiations in all GH forums. Furthermore we realise the importance of long term sustainability of the GH development, we institutionalize and establish GH network among MOPH, universities, PH agencies and other sectors (MFA, MOC)

### Reading list

1. UNDP. (1997). Capacity Development. New York: UNDP.
2. Limwattanayingyong A, Thailand and its Development of Global Health System. In: Rojanapithayakorn W, editors. Thailand Health Profile.2016-2017. Bangkok: Sangchan Publishing; 2017. p. 269-298.
3. Tiantong S, Limwattanayingyong A, Wibulpolprasert S, Vedrasco L, Kertesz D. Towards optimal collaboration: reforming the WHO country cooperation strategy in Thailand. Bull World Health Organ 2019;97:642–644.





## Mr.Charlie GARNJANA-GOONCHORN

Title	Mr.
Affiliation	Ministry of Foreign Affairs of Thailand
Profile	<p>Dr. Charlie Garnjana-Goonchorn joined the Ministry of Foreign Affairs in 2007. He started his career working at the Treaty Division overseeing various aspects of Thailand's treaty making process. During his post at the Permanent Mission of Thailand to the UN in Geneva, he was in charge of extensive areas of work, including those within the purview of WHO and UNCTAD. After returning to Thailand in 2017, he has played a key role in several international disputes involving the Royal Thai Government, in addition to providing legal advice related to international trade, investment treaties, dispute settlement mechanisms and arbitration.</p>
Lecture summary	<p>The lecture will run through the basic principles of negotiation, explore how to use negotiation skills in a multilateral context especially in Global Health Diplomacy. The lecture will also highlight what negotiators should be looking out for, what are the usual traps, and how to address them.</p>
Reading list	



## Dr. Satoshi Ezo

Title	Director, Global Health Strategy Division
Affiliation	Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan
Profile	<p>Dr. Satoshi Ezo currently serves as Director, Global Health Strategy Division, International Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs (MOFA), since 2020, where he oversees and coordinates Japan’s global health diplomacy and strategy, including COVID-19 response. He is also cross appointed as Director at Headquarters for Healthcare Policy, Cabinet Secretariat, since 2021. Prior to joining MOFA, he was engaged in health care and public health policy in the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan, including in the areas of global health, universal health insurance system, non-communicable diseases including mental health and cancer control. He was seconded to UNAIDS Headquarters in Geneva (2009-2012). He was the first appointed Senior Coordinator for Global Health (2015- 2017), where he was involved in the WHO emergency reform, coordinating health agendas for the G7 Ise-Shima Summit in 2016. He was most recently Counsellor of the Permanent Mission of Japan to the United Nations (2017-2020), where he was instrumental in facilitating UN General Assembly High-Level Meetings on tuberculosis (2018) and universal health coverage (2019). He is a Medical Doctor with PhD, and received Master of Public Health and Master in Public Administration from the Harvard University.</p>
Lecture summary	<p>This lecture intends to share examples of key and difficult negotiations on global health based on hand-on experience by the presenter. These cases would include but not limited to below:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. On 23 September 2019, world leaders at the United Nations (UN) General Assembly High-Level Meeting on Universal Health Coverage unanimously approved the Political Declaration of the High-Level Meeting on Universal Health Coverage, described by UN Secretary-General António Guterres as “the most comprehensive agreement ever reached on global health”. This historic agreement reiterates a number of key principles, including the importance of health for implementation of all the goals and targets of the 2030 Agenda for Sustainable Development. World leaders recommitted themselves to achieving universal health coverage by 2030 and to scaling up global efforts to build a healthier world for all. The high-level meeting and its political declaration were the result of a series of concerted multi-stakeholder efforts.</li> <li>2. Also, the COVAX AMC Summit co-hosted by the Government of Japan and Gavi on June 2nd 2021 might be touched upon. Prime Minister Suga Yoshihide co-chaired the meeting with Mr. José Manuel Barroso, Gavi Board Chair, and Foreign Minister Motegi Toshimitsu took the role of facilitator during the Summit. This Summit was organized to raise additional funding to secure necessary vaccines for developing countries by the end of 2021, in order to ensure through the COVAX Facility equitable access to safe, effective and quality-assured vaccines thereby overcoming the COVID-19 pandemic.</li> </ol>
Reading list	<p>Essential:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Satoshi Ezo, et.al. (2021) “The Political Declaration of the High-Level Meeting on Universal Health Coverage (2019): Negotiating the most comprehensive agreement ever reached on global health”, A GUIDE TO GLOBAL HEALTH DIPLOMACY, Graduate Institute of International and Development Studies. (PP. 235-252) <a href="https://www.graduateinstitute.ch/sites/internet/files/2021-02/GHC-Guide.pdf">https://www.graduateinstitute.ch/sites/internet/files/2021-02/GHC-Guide.pdf</a></li> <li>2. Prime Minister Shinzo Abe’s participation in the UN High-Level Meeting on Universal Health Coverage (UHC)  English: <a href="https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page6e_000218.html">https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page6e_000218.html</a>  Japanese: <a href="https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ghp/page4_005303.html">https://www.mofa.go.jp/mofaj/ic/ghp/page4_005303.html</a></li> </ol>

## Reading list

3. Outcome of the COVAX AMC Summit. MOFA. June 3, 2021  
English: [https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page1e\\_000326.html](https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page1e_000326.html)  
Japanese: [https://www.mofa.go.jp/mofaj/page1\\_000979.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/page1_000979.html)
4. Dr. EZOE Satoshi. "Toward New Solidarity in Global Health: Universal Health Coverage and Reform at the WHO" No.67, Diplomacy Oct. 27, 2021  
[https://www.japanpolicyforum.jp/pdf/2021/no67/DJweb\\_67\\_dip\\_02.pdf](https://www.japanpolicyforum.jp/pdf/2021/no67/DJweb_67_dip_02.pdf)  
Japanese: 江副聡 (2021) 「国際保健をめぐる新たな連帯へーユニバーサル・ヘルス・カバレッジとWHO改革」 『雑誌 外交』 Vol.65 Jan./Feb. 2021  
[http://www.gaiko-web.jp/test/wp-content/uploads/2021/01/Vol65\\_p100-105\\_New\\_solidarity\\_over\\_international\\_health.pdf](http://www.gaiko-web.jp/test/wp-content/uploads/2021/01/Vol65_p100-105_New_solidarity_over_international_health.pdf)
5. Japanese: 馬淵俊介、江副聡 (2021) 「「パニック&ネグレクト」を繰り返すなーワクチンへの公平なアクセスに向けた国際的展開」 『雑誌 外交』 Vol.69 Sep./Oct. 2021  
[http://www.gaiko-web.jp/test/wp-content/uploads/2021/09/Vol69\\_p110-117\\_Do\\_not\\_repeat\\_Panic\\_and\\_neglect.pdf](http://www.gaiko-web.jp/test/wp-content/uploads/2021/09/Vol69_p110-117_Do_not_repeat_Panic_and_neglect.pdf)

### Key Resources

Cabinet Secretariat. The Global Health Strategy. May 24, 2022 (English/Japanese)

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/en/pdf/final\\_GHS\\_outline.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/en/pdf/final_GHS_outline.pdf)

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/senryaku/r040524global\\_health.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/senryaku/r040524global_health.pdf)

UNGA HLM on UHC:

<https://www.un.org/pga/73/event/universal-health-coverage/>

<https://www.uhc2030.org/un-hlm-2019/>

Political declaration of the high-level meeting on universal health coverage, Universal health coverage: moving together to build a healthier world

English: <https://undocs.org/en/A/RES/74/2>

Japanese: [http://kyokuhp.ncgm.go.jp/topics/2020/UN\\_UHC\\_J\\_2020925.pdf](http://kyokuhp.ncgm.go.jp/topics/2020/UN_UHC_J_2020925.pdf)

COVAX AMC Summit:

Recording of the Summit

<https://www.gavi.org/gavi-covax-amc-summit-2021>

Summary:

<https://www.gavi.org/vaccineswork/world-leaders-and-private-sector-commit-protecting-vulnerable-covid-19-vaccines>

Recommended:

1. Address by Prime Minister Kishida at the Seventy-Seventh Session of the United Nations General Assembly. MOFA. September 20, 2022  
English: [https://www.mofa.go.jp/fp/unp\\_a/page3e\\_001242.html](https://www.mofa.go.jp/fp/unp_a/page3e_001242.html)  
Japanese: [https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/unp\\_a/page3\\_003441.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/fp/unp_a/page3_003441.html)
2. H. Sakamoto, S. Abe, S. Ezo. Abe's legacy – Japan's contribution to global health. October 30, 2020, BMJ GH Blogs  
<https://blogs.bmj.com/bmjgh/2020/10/30/abes-legacy-japans-contribution-to-global-health/>
3. Abe S. Japan's vision for a peaceful and healthier world. Lancet. 2015 Dec 12;386(10011):2367-9 (English/Japanese) [https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page18e\\_000126.html](https://www.mofa.go.jp/ic/ghp/page18e_000126.html)
4. Kotono Hara, Satoshi Ezo. Why does global health matter to diplomacy? Global Health Governance, Vol. XIII, No. 1 (SPRING 2019)  
<http://blogs.shu.edu/ghg/files/2019/11/Spring-Fall-2019-Issue.pdf#page=23>

As available:

江副聡 (2020) 「6章 UHC主流化に向けた国際動向と日本の取組み」、城山英明編 『グローバル保健ガバナンス』 東信堂

江副聡 (2022) 「4章 1. グローバルヘルス外交」、日本国際保健医療学会編 『実践グローバルヘルスー現場における実践力向上をめざしてー』 杏林書店



## Prof. Hiroki Nakatani

Title Visiting Professor

Affiliation Keio University Faculty of Medicine

Profile In the past seven years, Dr. Hiroki Nakatani has held academic positions in Japan as Visiting Professor of Keio University and Invited Professor at Osaka University Post Graduate School of Medicine. He is the former Chair of the Executive Board, WHO. Currently, Dr. Nakatani also serves in various national and international organizations as Adviser (International Affairs) to the Minister of Health, Labour and Welfare; Chair, Board of Directors, Global Health Innovative Technology Fund (GHIT Fund); Senior-Advisor, Economic Research Institute for ASEAN and East Asia (ERIA) ; and Director, Human Resource Strategy Center for Global Health. He is a veteran public health specialist for over 40 years, who started his career at the Ministry of Health, Labour and Welfare in Japan. He worked extensively in health policy, public health, international health, and health science and technology. His national career includes serving as Director-General of Health and Welfare Services in Hiroshima Prefecture, where he was in charge of integrating health and welfare services in preparation for the arrival of a rapidly ageing society. Regarding international career, he served the WHO Headquarters twice. From March 2007 to May 2015, he served as Assistant Director-General of WHO, leading the largest technical cluster of HIV/AIDS, Tuberculosis, Malaria and Neglected Tropical Diseases. Dr. Nakatani received his MD from Keio University School of Medicine, MHPed from the University of New South Wales, and a Ph.D. from Keio University.

Lecture summary The first session, "WHO and its role in global health governance, " aims to achieve the following objectives : (1) to understand global health's complex architecture with special attention to UN agencies' roles, particularly WHO; (2) to understand the governance and operation style in different organizations, i.e., intergovernmental organizations and partnerships; (3) to gain practical skills to be an influential contributor in governing body meetings. This starts by analyzing the massive volume of background paper in a relatively short time. Participants are invited to visit the WHO governing bodies website (Ref.2) before coming to class. This experience will make participants miserable initially, but after the session, everyone will feel encouraged. The following sessions, Mockup interventions, aim at being an influential contributor in the official meeting. The four-step approach will be practiced; (1) Reviewing the background paper; (2) Digesting the instruction given by the Government after inter-ministerial discussion; (3) Drafting intervention and making actual intervention to fellow participants. At each step, there are seasoned hints and skills. They are shared, and Mock interviews enable participants to improve each one's intervention by practice and constructive comments by facilitators and among fellow participants.

- Reading list
1. WHO: Basic Document Forty-ninth Edition,2020 [https://apps.who.int/gb/bd/pdf\\_files/BD\\_49th-en.pdf](https://apps.who.int/gb/bd/pdf_files/BD_49th-en.pdf)
  2. WHO: Governing Bodies website <https://apps.who.int/gb/gov/>
  3. United Nations: Model United Nations <https://www.un.org/en/mun/model-un-guide>
  4. グローバル・クラスルーム日本委員会：模擬国連マニュアル <http://jcgcc.accu.or.jp/manual.pdf>



## Dr. Haruka Sakamoto

### Title

Dr.

### Affiliation

Tokyo Women's Medical University

### Profile

Haruka SAKAMOTO, MD MPH, PhD, is a primary care physician and associate professor at the Section of Global Health, Department of Hygiene and Public Health, Tokyo Women's Medical University. She got her M.D from Sapporo Medical University and worked as a physician at St Luke's International Hospital in Tokyo for several years. She then got a scholarship from the World Bank and got her MPH at the Harvard T.H Chan School of Public Health. From 2011-2013 and 2016, she worked at the international cooperation department, Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan, where she was deeply involved in health policy activities in Japan. As part of the work, she participated in WHO meetings, G7 meetings, and bilateral cooperation activities through JICA (Japan International Cooperation Agency). She got PhD from University of Tokyo in 2021, and she's also currently working at Gates Foundation Tokyo Office, and World Health Organization as a consultant, and Department of Global Health Policy, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo as a project researcher. Her current research focuses on health system strengthening, health care financing, and politics in global health.

### Lecture summary

Many people are unfamiliar with an intervention at international conferences and have no idea what is the "format" of an intervention. In this lecture, I will show you what to include in your intervention, starting with the format of interventions you should make at international conferences (mainly at the WHO meetings). On the other hand, I will tell you about some bad things you better not to say (don't).